■「破防法裁判闘争への訴え」

破防法裁判闘争を支える会世話人 浅

田 仁

光

輝

破防法裁判第六回公判闘争

(1)

を

一獄中被告を年内に奪還せよ

九段会館(超和銀田級下車) 十二月十六日(水)午後六時(開き

主催

破防法裁判闘争を支える会

■「司法権の危機と破防法」

「階級支配と破防法の本質」

法制定当時の衆議院法務委員弁護士、前衆議院議員、破防

猪

俣

浩

/猪俣浩三、羽仁五郎

9、10日 小西反軍裁判第四回公判新潟現地闘争

7日 破防法裁判第五回公判闘争

二里塚現地交流討論集会/三里塚芝山連合空港反対同盟

フ 日

ヨーロッパ学生裁判にふれて---

参議院議員・法務委員歴史学者、破防法制定当時の

羽

五

郎

18日 日韓条約批准五周年、日韓法的地位協定粉砕、入管法再 17、18、19日 全学連第29回臨時全国大会/10時、板橋区民会館

上程阻止、入管体制粉砕全関東総決起集会

破防法と闘う講演集会

国家権力によ

本土地独等
本土地独等
「こは受けるがあります。
でいるだし、それでも反対する
三世紀は本のは、大きの様に使いつとめた。
正は、大きの様に使いつとめた。
「中心時に上面地等
「大きの様としているとなった。
でいるだし、それでも反対する
三世紀は本の様としているとなった。
「中心時に上面地等
「なおいます」となった。
でいるだし、それでも反対する
三世紀は本の様とというというとなった。
「中心時に上面地等
「なおいます」となった。
「なおいます」となった。
「なおいます」となった。
「なおいます」となった。
「なおいます」となった。
「なおいます」となった。
「なおいます」となった。
「なおいます」となった。
「なおいます」となった。
「ないます」となった。
「ないます」となった。<

で(法律学者の中にあってさえ特 | 最大の三里家(軍事)空篭が、そ | 化させているのであり、われわれ

羽田空蹇の三省、日本航空史上」収用という計画をはっきりと具体った。 その後二カ月の審理網腦――強個 文配階級の死活をかけた課題とな | 撤法の認可を用意している彼響は

みは抉して軽いものではない。

の成がは「開発される発展を通り、発動をなると下もものである。」とな、それは「以不物により、成・等は三星巻110減増に調整してあった。 関の関いに戦争を含えるそも、支配機能は、この土脂機を発着。立め可能はなけずとて、土臓炎者、名にむよる機制を重用させ、経・物別機能の自然がは「開発される発展を重加し、対象がという。

機民への特別措置法の適用ー国家 地収用委員会が教抉不可能な時は

の可能でなだ。その事業が、ブー機会でもお上し種類が動物さどの報告という。土地が 関係を全であるまた。 部籍となったは、またの事業とは、これである。 「本来の「日に」 経験を得るよう。 「本郷の」 「

れないように画策をした。

そしてそれでも崩れない時、彼一階級を斃地へ追いつめてくる過程

開級を斃地へ追いつめてくる過程と略を遂げるための最大の武器のひ法。を敬頭教局うちくだき、支配とは帝国主義者が軍事的、経済的投法。を敬頭教局

る。
一入し、その帝国主義的平定は日本
階級の窮地に立った姿の露屋であ。帝国主義者は絶望的道にいまや突

激励するアジアへの侵略へ日本

里塚勝利かちとれ

特措法に先制的攻 繋的戦闘宣言を

同けての全国な金融的難いを確一だすというものである。いいかえ一の可否でもない。その事業が、プー

るために、土地強奪、国家の強権 れば支配階級が、その目的を遂す 現すべきものは、この日前後に認 交湾集会を通じて、われわれが実七日の全国住民、農民闘争の現地

- 二月六日の三里寮会園集会と | 公団)の申請によって国家が、当 | のは反対 のため の反対だ! など | の間、政府―空運公団は、三里家 |

省であるかの如く描きだすことに

のためにあらゆる手段を使って来

二月六日、七日は、単に三里一である

性格は国家の強権発動に対する金ろう。

そしてこの動争振勢の全国的確一権発動粉砕に向け決起せより

集し、反対同盟と共に特措法一書 金田の農民、労働省、学生、市

和となった。「卵並い」などという名

防法被告・全獄中被告の総奪還 |千万円保釈金カンパを

と、あたかも国家が全民衆の関係|芝山連合空港反対同盟の切り崩し

- 機民調君がこの攻撃と如何に関うかにかかっている。十二月六日の全国集会を圧倒的に成功させるととにより全力をあげて、強模発動粉砕の翻いを強化せねばならない。

政府はこの十二月上旬にも、三塚里に対して「公共用地の取得に関する特別措置法」の認可をおうぞうよしている。特指法の適用は、一切の「民主的」手段を設けするて図家が強権発動によって、土垣

警察権力はもとより、プルドーザー等を使って三里委主山議員を庇しつぶてうとする極めて厳しい攻撃である。三里委闘争の勝利は、反対同盟を中心とした全国の労働者、学生を

中勝利の全国的国いを保安せれば、4、東大勝地でいから三国英雄 する支配開発に対して、三国東郷、著一学生で「最近が、全国く当 のだめに、業権発駆をひけるうと、十日の集を進して、全国の労働 のにめに、業権発駆をひけるうと。
 七日の集を進して、全国の労働

本の階級關学にとって大きな蓄積この反対回覧との深い連帯が日

国家芝山連合空権反対同盟の農民已要革をとげてきたのだ。いま三

達は、闘争を通じて自己の人間主

「製造するだめに挟起する「漁撃する」とを添れ、そのた。の年内観客選を願いと打ノ、他・七回目の保知解が対けませた。我供きた機能で表現性に、食事の事。毎の日食が保証を与なりが、豊を変して、残るな様中では、とる学する。保防法教育の活が国家を影響を持ち破、取り角とど。 吹けたたただ、 えるノ・この保防法兼成の多 とば、その道(所)があめたたり

・ 金鉱中被告の保釈金はさらに巨く 全鉱中被告の保釈金にさらに巨いなろう。われわれは保護のものとなろう。われわれは保護のものとなるという。

戦ノ五八三一五四八〇

党の共有に肉迫し、日本 増下、電イ五八三一五四八八○

花一二六色 からと

となるであ ろうことは明 自てあ

関争の機関を選撃しつつあるか のだ。

りだしてきた。特に九月三十 さに隣民としての生きる道をつく

いの第三次復制消量阻止関争通じ

アジア人民と、日本に存在する 民、部路人民、自衛隊員、在日 校生はもとより、農民、地域住

として、全国の同志・文持者諸君 たすべての関う労働者、市民諸君 たすべての関う労働者、市民諸君

て、全国の同志・文持者諸君さらなる大進撃の七一年めざ

■栄松堂(東京駅八重新南口駅) 「前頭」、「共産主義者分子」 「前頭」、「共産主義者分子」

ルー府、電イニニー三六七五の一年を投業(東京駅八嘉州北口駅)

「前巡」・「七〇年安保狭戦」

可。あて先は米紙・超学下参

育・口様的」を

「脳マル派批判」・「アジア」 「前巡」・「共衆主義者の号

カンパを訴える

時金の三割

のなって、日景には、地へ四九

的前衛党を建設せよ」など マル派批判」・「レーニン主義「アジア侵略と入官法」・「著

革命的共産主義者同盟



刊

1部 50円

特別措置法-強権発動粉砕 6日 総決起集会 7日 現地交流集会

月ぎめ 250円 (子共) 郵送読者の講読料 総学年1500円・1 年300円 創学年300円・1 年600円 組以上は送料当方負担

反帝国主義・反スターリン主義の旗のもと

主催 三里塚芝山連合空港反対問盟12月7日午前より、三里塚

万国の労働者団結せよく 革命的共産主義者同盟 全国委員会

全三里 現地交流集会 住民國祭総決起集会 主催 三里家芝山連合空港反対同盟12月6日正午、三里家第二公園

12月6日 三里塚空港粉砕、特措法粉砕全国集会/正午、三里塚第二公园 16日 破防法と闘う講演集会/6時、九段会館/破防法裁判を支える会 11日 全学連沖縄問題講演会/4時、慶応日吉/全学連/陶山健一 先制的、攻撃的戦闘軍者は、であ、今日全国条要で重発する戦争るということ 支配階級の空推設値にかけた重|突破口たらかとしていることで 全国人民の決起で三十年、年級、最初かぶまたその 快に勝ち抜きも〇年代階級闘争 われわれは米るべき全国集会を

撃であることも冷 厳な事実 なの をかけて来たのだ。

その実現に支配階級は自らの飛躍の政治過程にはっきりと取りくみいることは、明白な事実であり、共に戦闘宣言を発することは、こ

闘争スケジュール



時 十二月十三日午後五時半開場 巫召鴻君支援集会

一生二月生れで伝作二二六号該当

中かり大産工業者同盟

| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| **
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| **
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| **
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| **
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| **
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| **
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| **
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| **
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| ***
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **
| **

からの脱皮ー人間性の回復の課題 は「巫君の自己解放の闘いを断聞 的に総括し、巫君の聞いにおいて 脳いを全く不十分なものとしてした。

てうけどめ、自らの抑圧民権

東学大人僧はなどが快速表明を

つづいて党派発言に移り、最初

岩の一二一二个を獲得する闘いをさい 推奨せねばならない」と聞う快

た。デモ隊は、巫君に対する一

米軍再5実弾演習

【 山田】 任日来総対司合総(株)っとしているのである。われわれ、単名時間等の予印出しなわれば、選び、参与「十大日、快楽報子は「出版機関との共同の観いて、米 【ならない。 つくて機関する中機監督の米第三 】 つくて機関する中機監督の米第三 】 つくて機関する中機監督の米第三 】 北富士着弾地に鉄条網 ないた。

日本側と米軍の約束では、射撃で にわかれて富士山ろく入りする。 梅兵館団の約千二百人が、二十九 め、十二月中旬以後にはりゅ の整備がすみ次第、実弾演習を再 国部**隊**がいつ北富士演習場を使

★革マル派批判 の意義を明らかにする する した根拠 し粉砕せよ

の反階級性を組織的に暴露★革マル派入管、沖縄闘争論 ★革マル派が第二民青に転落 ★革マル派の入管闘争を批判 本質をあばき反帝・反スターリン 主義の真 帝国主義的民族主義に転落した革マル派の

好評発売中!

二五〇円

★8年~70年6月における草

マル派、他

だ北富士演習場では<u>陸上目</u>前 から四日間一様大隊が一般街

ノ七三二ー二三回一ー六)

「前班」・「共産主義者の号

前進 販売書店

T・二一個争に自衛隊が を完遂しうる軍隊を持つことが死

前

し、法律一二大号適用を断固として要求し関っている。われわれは、一日も早く、巫君への法律一 【同化政策】に加担し、その推進者となって収後民主主義の時代を生きてきた日本人上してのわれ 二六号適用をからとるために、闘わねばならない。侵略・虚器・教人やくりかえしてきたわれわれ、

変更順を品川の東京入告へ出すよい。書類三道をそえて、在福資格 類とは、の影奏、の法律一 うに」と回答してきた。三辺の書

そのことは、二十一日の害度の

人質は「事務上のミス」で

|法律||二六号外国人をあらゆる機会を通じて減少させ、最後的には法律||二六号という法的単位を

としているからだ。巫君は、日帝のこの「同化政策」をきっぱり

せんとしたが、巫君の厥國たる翳いによって、二十六日三年ピザが下された。 に法律一二六号適用を要求して闘っている。これに対し当局は、卑劣にも特別在協資格すらはく考 法律一二六号(註1) 験治者でありながら、不当にも四1一・十六~三(註5)という特別在個

寶格しか許可されていなかった。 在日中国青年巫召簿(ウー・ツァオフォン) 君が、 法務省・入管

することの前で大いであっ、類にかかり名響をするさとは することの前で大いであっ、類にかかり名響をするとは なっているのが対対が、というできるだっしたと発生が だっているのが対対が、というできるだっしたとなった。 ので、スケからの名をつっては、近く数の姿を備えつの多では、 ので、スケからの名をつっては、成本のものでは、 ので、スケからの名をつっては、成本のものでは、 ので、スケからの名をつっては、 は、ので、スケからの名をついては、 ないで、スケからの名をついては、 ないで、スケがらの名をついては、 ないで、スケがらの名をついては、 ないで、スケがらの名をついては、 ないで、スケがらの名をついては、 ないで、スケがらいで、スケがらいで、スケがらいで、 ないで、スケがらいで、スケがらいで、スケがらいで、スケがらいで、 ないで、スケがらいで、スケが

超反動的反革命の登場

The second secon

一三届田北大の河原自殺事件は、 けしかけ、それを実施に自衛隊を 会員本の労働者開放人民、いな金、国主要選隊へ、基化し、進施的国 会員本の労働者開放人民、いな金、国主要選隊へ、基化し、進施的国 大学の人民に対する。このうえ、アシア阿提略と反革命回避在の帝

全主義の法的解釈によっていまか、あり、歴史にさからう数反動的なってもない。 日本人の郷の郷皮、道義の順路の い。 き」たる「突然を中心とする日本 ・ 皇制回復を要求に議覧がし、自衛隊を「建図の本 ・ 見術隊を「建図の本 ・ 見術隊を「建図の本

の歴史・文化・伝統を行る」こと

。その偶然的なものではなく、日本帝 し、その強行実破の方向を、駆骨に関主義支配階級の危機避難を代弁 に、衝動的に提起したものであ アジア再侵略を唯一の『結婚

の意味するもの

自

どちらを選ぶのか!! 「衛隊兵士に告ぐ

三島由紀夫の割腹事件

君に126

| The control of th

その彼の命がかかっている間において、先の末末の回答が黒い陰謀が綴巻きはじめたの一合ことを略に複要したのだ。

* * * * * * 定価千二百円

革共同安保問題重要論文集

本多延嘉編

練

に火急の任務となっているのである。 してしまった。これとの関いは「返還協定」を前 一されていた運動を決定的に分裂させ、大衆闘争かないのである。たが選挙戦は、復帰協の下に統

三方向に整理して要約してみよう。

A、アジア侵略の要塞·永

久核基地化をめざす攻撃

を結ぶC5A(従って当然にもB位)の回廊がつ

艦隊司令部を佐世保に移し、三沢-嶺田-嘉手納

る。施政権の移行によって、張水か変るのでなくか、ことごとく基地に従属し、それを支える存在としてのみある現状は、より強化されて継続され、ことごとく基地に従属し、それを支える存在しているのでは、沖縄自万県民

、現状が変るのでなく

である。本土においてすでに労働者人民から見放である。本土においてすてに労働者人民から見放しておいては「政府と関える最大の力」として熱烈な明符である。本土においてすてに労働者人民から見放

万上原は、全軍労をはじめこの間の沖縄関争

一、「返還協定」の反動性

再度闘いの原点を

社会党候補として本土議会の支配の中に沖

四月副印阻止」に向って急ぎ飛騨させるにあたっ。
重大局面を迎えた沖縄撃強闘争を、「返避協定」

「返還協定」がいかなるものであり、それが二十て、今一度日米帝国主 義 圏でつくられつつある

五年にわたる沖縄の分離支配をごう「変化」しよ

避」政策は、米帝の敗勢を支え、日帝のアジアほ の沖縄の役割を高く評価し、韓国・台湾を日本の 施政権返還」は、ベトナムでの米帝の優略を全面

略を強化し、本土・沖縄を一体化した日米安保同 防衛圏として確認する上 で 行われる。沖縄『返 的に支持し極東における帝国主義支配の要として

撃の準備を、いささかでも軽視したり放置するこ

とは絶対に許されぬことである。沖縄基地の存続

土垣を嫌かな耕地に復元してである。 者の負担と責任において、コンクリー

土地の返還を辿ることができる。もちろん、

沖縄から連旦行われているインドシナ人民へ

われの主体的責任を、実践をもって尿すべく、

く明鮮役略のための準備なのである。

基地の再編強化、自衛隊派兵・演習は、ことごと **沖縄が日本帝国主義の直接の侵略出撃基地である** に七一年を前に、緊張を深める朝鮮半島の情勢は

われわれは、入管闘争を闘う中から、アジア

ş

ら年々地代を受収って

行している

形となっ き方法で襲民から奪い取ったものであり、 網の米軍基地は、敗戦から六 ことが日の最たるものであるが、なかでも

もちろん、「返避協定」は極秘に作成中であり

の立遅れを縮假こめて かみしめ ごせるものがあ 政府と闘う途を求めて、必死に社会党を信じよう

この上原に寄せた期待と根強い選挙担否の意志

それらにふまえ、「返還節定」とそれにおく文學してきたものを変えるものではない。ここでは、してきたものを変えるものではない。ここでは、ま物的なものである。しかしその狙いはすでにれた動的なものである。しかしその狙いはすてに による健権支配、の日本独占による収等・破壊のをの「核ぬき本土なみ」のペテン性、の本土収府

る「基地の島」の固定化

B、 日帝の強権支配によ

アジア人民に対する、われわれの最大の犯罪であ

保証監による帝国主義アジア支配の機であり日帝

軍事的にも日帝によって加遠される。沖縄「返還れ、しかも日本の施政権・日衛隊派兵によって、 縄の現状は、ますます「基地の島」として強化さいの再編強化をめざすものである。それゆえ、沖 の選挙に「新しい願い」を期待した。瀬長、下家権的に協力した。人民は、複雑な気持ながら、こ

選挙で勝利した革新三党は、自らこの構図に積

目民党は沖縄における「勝利」を宣言しているの 他の保守候補も引難してトップ当選したことで、「沖縄人」の意識を取込むという偽瞞をろうして 否し、本土政府自民党の「七二年沖縄返還政策」 の中に、沖縄闘争の直面する深刻な危機が鮮かに **ひ日軍用道路を埋めつく心た「佐藤訪米阻止」の新勝利」の選挙結果を模する紙面に、一年前の同** 態勢の悲劇的な離反

の全員当選、得票率においても自民党を破っ

はその意志表示である。しかし、この選挙は、

切ろうというのだ。沖縄奪遠闘争は、大幅にその決戦期が繰上ったのである。 定」の四月幽印-参院選勝利-その軽後の疑問為ての批准という、短期決着の強行策を決意した。 経機を日常にもたらさすにはおかない。そこで私府自民党は、さらに日程をくり上、け、返建協志が、日米共同戸田への頼含を示している以上、こうした「返還節だ」への疑りの集発は軍大な 内容を、粗反動的なものとする以外に日米合意はあり得ない。しかも、渡亭で示された県民の意日米関係の緊張・インドシナ侵略の再激化が加重されるため、「七二年沖瀬施政権返還」はその日米関係の緊張・インドシナ侵略の 的な「返遺協定」を強引に押しつけるのみ たのである。「革新」陣営の認恵に乗じ、現地の反対運動が動き出す前に、ドサクサまざれに押 的な「返還協定」を強引に押しつけるのみとなったのである。日米共同海明の基本粋に、最近のた。日帝にとっては、顕孝終了によって「県民の海」に気がね不用となったとして、後は超反動国政参加選挙の終于に同時に、政府官民党は「沖縄返還路定」の稀析に向って先打で動きたし

を粉砕し、日米安保回盟とそのアジア支配を根底からつき崩す翻いをなんとして

はらは八左大衆郷がに知されて、日産側の金素が行動り、棚巾がていると離れなった。 に認込がは、特殊を認めたは大大像素の研究であって、報じしつから複数的な、に選 施定しを新い、日町大大学を含えるととは、中間奏数、促発的か、日常対価への大雅等人数 大の傾いとなるであるう。

即一金銀砲にすえた行動と移令上を誇える。われわれはこれ、第二十二年中観後領政策料幹・止二統一し、現地・本土をとうレデナペての願う人々が、「七二年」ではなく「七二年四月網上われわれば、この情勢に難み、 中観像の行動スローガンを「神郷遠郷をお幹・四月副印阻 国政参加選挙と「七二年返還」

沖縄の意志と闘争 (策の新段階

沖縄特別委員会からさえ締め 出したので ある。 審量武三議員を「無所図」のくずかこに放り込み 審回一緒にすぎぬことを見せつけた。安康、瀬廷 御の一緒にすぎぬことを見せつけた。安康、瀬廷 B、攻撃の新段階と闘 争態勢再建の緊急性 「沖縄党」の期待は、最初から一蹴されたのだ。

次いで、政府は三十日「沖縄対策要無」第一次

定期間」とあいまいにされ、必らず「必要な整備 現処の要求を容れる特例措置は「当分の間」「一と同時に」「可及的すみやかに」でありながら、こと同時に」「可及的すみやかに」でありながら、こと直接独古の経済的利益につらなるものは「復帰 質質に「教育委員会任命制」をかかげた。こ 分を発表、自己党からの 「生産者米価の掲載き」など現地

国政参加選挙テ「返還」政策粉砕へ

戦闘態勢確立は急務だ

*** 1144できます。 - 七二年返還」政策のレール に乗せられつつあることを同時に示したものであった。

を図り. 発表され、自民候補へのテコ入れとすると寛伝さ 欧権返還」の内容が超反動的であり、現地の希望 それゆえ選挙後につきつけられたといえる。この をことごとく隣みにじるものであることを示して ことは、「返贈協定」の内容をはじめ「七三年施 れていたものだが、こんな内容では逆効果であり この要願は、投票直前に「経済振興法」と共に の運動にあるのだ。 屋するであろう。問題は、それをとらえて、強力に とも、「返還協定」の内容は必らず入民の前に襲 にはいかない。いかに秘密のペールをかぶせよう で、綴いは「四月瀬印阻止」でめごす、四月以前 な反対運動を組織する主体にある。

まさにこの点 かの六〇年安保闘争が、数年にわたる「交渉」

塩を限ることころ繁色を示し、日帝が「七めて那塩を限ることころ繁色を示し、日帝が「七めて那種は、ますまず加重されこそすれいさどから低下種は、ますまず加重されこそすれいさどから低下

Ħij

元出した西銘が七二年这種政策の推進の先頭

「ヤマトンチュウに負けるな」

冷酷な無視の態度を置いている。そうすることの対九○が三○三対九一になっただけである。

の抵抗はすべて本土の議会内に組み込まれ

工政府自民党はこの選挙によって、沖縄現地一

押つけるしか方法はない。政府自民党首脳が相次し ては、超反動的な内容の協定、内実を、力づくでとは明白である。そうであれば、政府自民党とし 人民の要求に職挙する余地がますます無くなると米共同声明に基いて「交渉」を行うのであるから はじめ軍大な経済的対立を保めつつぶる中で インドシナ侵略の泥沼にあえぐ米帝と、繊維を 行させ、南ベトナム賠償問題とからんで「十一・に「早期週印阻止」の歸いを高揚させ、交渉を棄 の縁上げ、これが今追られているのである。 二七国会突入デモ」を実現し、「藺印阻止なくし て批准阻止なし」を合言葉に、六〇年に突入して だ例は、運動上の一つの教訓となろう。

ンドシナ半島への出撃基地という点により鋭く示この点は、沖縄基地が現に果している機能ーイ

される。沖縄こそアジア侵略の拠点であり、

げられ、生活のすべてが基地の付属物となっ 覇市内の住宅地に入組んだ滅地だけでも整理して

る現状がそのまま引騰がれる以上、。本土なみ。 斃所になっているといわれる。 土地の大半が取上 ほしい」と要求してもこれを拒否、交渉の1つの

つくって支配を強め、四度動的な本土の体制を紙いて合法固定化し、四重力な行政、警察機構 身の軍事体制として積極的に行われるのだ。こ

一方本土政府は、①現在の米軍支配の現状を

れを進行させている。 用して一層支配を強める攻撃を準備し、すでは

安保条約に基づき、沖縄基地をそっくり引撃

に関く上さられ、沖縄問題におけから 復発性 後 かかられている。これに乗じく、政府目気だけ、「受着」 なれ、飛地「最常」で完全、このペースに組合さ であれ、飛地「最常」で完全、このペースに組合さ であれ、北地ので、これに乗じく、政府目気だけ、「受着」 た強行策への地図めなのである。 参院選の勝利ー参院選直後の臨時国会(八月)で 協定」の四月副印ーその成果を京伝して地方選・ 今日まて、「返還協定」の交渉は秘密のペール という短期挟戦を狙っている。ここ

では、本土は選挙に収入し(しかも自民の正勝はでは、本土は選挙に収入し(しかも自民の正勝はでは、本土は選挙に収入し、仲親現地は「口をはさむ闘も予定されている)、仲親現地は「口をはさむ闘も だが、このペースを思惑とうり実行させるわけ れているのである。

・ニーチラを各本則が重点合わされることによって、本土・沖縄・密朝鮮・台灣を射程におした計画44十分 一元的基地化が地んでいる。さらに、自郷歐派兵

挑地のために作られ、出入域・海空曹地・**電**力・

政権返還」によって、進んで米軍の万能の権限を

ない。 一般な調をおかたたたれなからに対すがない。 四次、のスース8の強大をもって、核変速と、血液を、原入・ロールの8の会も、 他北京・リン・マールの3の会も、 他北京・地方・ロップ・マールの3のではない。 世界に、 一般では、 一般で にある沖縄」を逆用して強化されるのである。
て、日米安保同盟の軍事体制は「日本の態政権下 いた日帝の侵略体制が重ね合わされることによっ であることは、あまりにも別白である。日米帝国この再編強化された日米軍事体制が「核つき」 遊に本土・沖縄をとおした、核選地化が前提とさ 前に米軍の庁に姿ねられるであろう(例えば幹空 ・ 延属周囲(ない)は、おきなり、「返回、後も没員 ・ び第三国への保護と様をの継載、総合管理を ・ び第三国への保護と様をの継載、総合管理を ・ び第三国への保護と様をの継載、総合管理を ・ では、大きなり、「返回、後も没員 ・ では、「なっ」は、おきなり、「返回、後も没員 ・ では、「なっ」は、おきなり、「返回、後も没員 ・ では、「なっ」は、おきなり、「返回、後も没員 それを固定・強化しょうとしている。 による文配の耐代りである。 米軍が、七二年の この体制をいささかも崩すことなく目からの手で 係でしか生きていけない。日帝は、七二年以降、 る。人間も、軍労務を最大の産業とする寄生四関 水・ガスの供給も基地防衛の ために行 われてい 沖縄では、土地も繰も飛行場も道路も、すべて政府の名で保証しようというのである。

その方法は、米軍の権限の大幅な保証と、日常

明令と定面から敵対し、矛盾を一挙に**変化等**の明令と定面から敵対し、矛盾を一挙に**変化等**の明令と定面から敵対し、矛盾を一挙に**変化等**の明令とに加いる。それは一層の苦し奏者第一 今日まで行なわれた交渉過程で予想される

政権返還」の中味は、七二年以後、沖縄県職

的解釈・行政的表行・警察的抑圧・財政処置のす るために日本政府が直接徴権的支配を発揮し、法 く、従来の沖縄のままである)のその体制を かに自由強大な機関を米蔵に残す(本土並及でな) 諸権限については広れに光華(及び自衛隊) 治するにあたって、 ①悪戦機能の維持、強化を第一 征し、より安定したものとする、の軍事上必要な 一としすべてを振地に順応させる体制を完全

帯と目前のアジア侵略の強行のために必要不可欠 声が高く、「大和人の将征展」は、沖縄基地の助 る。すでに自民党内では「沖縄を甘やかすな」の **感骨に示したものであった。特に、こうした司法** れたことは、「総政権返退」の正体をあまりにも 際民の衝突を、「総口」において圧殺し、県民を は程遠い沖縄の状態から紅発する米車・自衛隊と

いをつづけ、獲得してきた本土よりも選挙的な、いをつづけ、獲得してきた本土よりも選挙的な、 のについては、教育委員会の任命制の強行によ

「教育組績等について必妥な整領を図り」というっての「条件整備」という名でより広れに行われっての「条件整備」という名でより広れに行われ ことで文語省の金田支配を前提にしており、 「教育組織等につい している。これは本土の蘇制度・法規の適用に当 「本土並み」の名で一撃のもとに粉砕されようと人民的な鯖制度・ 諸権利は、基地 とは正反対に 「地域と観念を重ねた時間の上部所名を指して、一本後での一層生に関係されて、政府目標として、 連載を重ねた時間です。若人のほどを持てからして、十年間の「影響」とは、井崎の大家と、信仰すべ 上が間違すれたいのでする。 「大人・本大の妻」として、本大の妻」として、大人・本大の妻」といい。

意志をようこととというがかり、その「無能力」をあげ のべられているとおり、本土政府は、神練県国の のについては、本紙五〇一号、五〇八号論文で のについては、本紙五〇一号、五〇八号論文で 事故への補償なざ、 引越ぐことも「返還協定」で

その最初に、公安警察のテコ入れ、面つきへル の大樋の「一体化」が行わ

の機能は、米軍が全島を人叫も合めて勝手気まま

二十五年間にわたる沖縄の分離文配と全島芸地

に使えるゆえに成立っていたのである。県民の本

土理帰の感順は、復帰によってそれができなくな という状態は、不可分の関係にあった。沖縄基地

た。しかし日常は、

琉球政府を廃止し、沖縄公務員の三~四千人の首 体制としての"沖縄県"をつくりあげるものであ つらって本土の行政機構を確立、強力な行致的支 いる。「七三年過」は とごとく二十五年にわたる

ちその不費をさらけだすものである。「協定」調整がかわるものだけに、「協定」の内容はだちま 即を待つまでもなく、すでに強力に逃行 話と日々インドシナに出撃している米軍基地に直 「一体化」をとおして、すでにその反動性は次々

り、政府が早期割印を急いでおり、米帝の姿勢かとを不可避とする。しかも、一章 でふれたとお

を勝せなかった佐 藤政府は、いよいよいよ「返還協 翼の広範な定着と沖縄県民の強い「担舎」の意志 党の議会内への取込みに成功はしたが、革命的左 を、「自動征校」、で深切り、国政参加選挙で ら、交極姿粘を急ぐことは簡定の内容をそれだけ

ださねばならない。 /日米帝国主義者は、この危機を乗切る

るここを担うであろう。そして米帝の側では、日してこまかし、「韓定担認法」「振興法」もあいまいな文章し、「韓定担認法」「振興法」もあいまいな文章にあ、「玄道協定」本文は「無興法」もあいまいな文章にあ、「玄道協定」本文は「無単な抽 条的作文と

側的に多い沖縄では、少んな建前をとろう2至車 こうした木上吹行による支配が、さまごまな懐管理権が、レーダーと影衝を得え、第用機が圧 学立法」の適用下に入るのである。 特殊な状況を永久に定省させ、「復帰」による現しかもそれは、「張旭社会」ともいうべき仲縄の ーを最後的に打ち砕く ことを狙ってい るのであれ打破に全ての希望を托していた県民のエネルギ 獨小過疎県のねじふせとぶることは間違いない。 ・柔策を加味しつつも、芸茶的には強大な力による

度」的なものでなく、アジア侵略に乗出す自報目 びまれることも明白である。 (これは決して『従 で「非常事態」の名目で「切が戦時体制にたよき

のものであるごとく)。また朝鮮情勢の緊迫な

収奪と破壊 日本帝國主義は、二十五年間米軍支配下に切納 開発という名の

県反戦など百五十起

沖縄「返還協定」四月調印阻止

県反戦、虢大全共闘、反戦高等、関大してある国政参加選挙の当日的な「七二年沖縄返還」政策の一

会主義への会談連にて劉登の怒り 神大学生名の部隊も上院全軍労委員長の部 確認された

【沖縄】日本帝国主義のペテン

学生、高校生白五十名は強い北風一ため適治なくついていた私服王名

が、デモ隊の後から、ウゼン

するやすぐ笠ま実力でこれ

権を持った日本政府に対し、米軍からの等われ、土地」の安からなしていない。「七二云れ「土地」の安からなしていない。「七二云れ「土地」の安からなしていない。 しかもその土垣は、塚いコンクリートで日本日 らすものとしてすでに進行しており、ヨークルト ・ 独石組基地のように、四日市製公舎を確実にもた ます沖縄の収奪と破壊は加速される。これは、中が加重され、日米大独占の争國戦によって、ます に日本市場への切込みを狙う米独占の強力な抵抗わたる米軍支配を既得権とし、さらに沖縄を足場 てた沖縄を、アジア侵略の拠点として新しく勝え によって破壊された沖縄の自然と人間を、さらに る水土独占資本は、戦争によって破壊され、基地設施定」を前徙に、すでに一斉適田を行なってい 迅能として、貧液な収奪の餌としつつある。「返 らず、高度成長の行給りを見せはじめた大独占の に当って、これを軍事的位置におくにととま

占に、最も食いやすい状態を保証 するものであ法」は、共に沖縄を食いつくそうと狙う本土大油 る。復帰に伴なう特別措置は、二十五年國米軍文について は、全く路みにじるのが その本質であことには強い努力を示すが、沖縄現地人民の利益 る。日帝の威信をかけて米資本の組出を阻止する 配の下に放置しておいたことへの償いをこめて、

と奪還論の革命性

的なものとなることは必要である。交渉避程をいい条文の中に盛り込むため、矛盾だらけの超反動 かに極秘にしても、国家園路定である以上、側印 の集大成 沖縄「巡邏領定」は、こうした基本的性格を短

現実となって綺麗されずにはいない。 「密約」「秘密台歌」で当面をとりつくろおうとも、佐藤 政府は、これまでの 外交の常であった。 のため楽文を発表し なければならな い。もっと するだろうが、それは日ならずして沖縄現地での 大○年の新安保条約と比べても、百万県民の生

が「沖縄返域協定」をめぐって大きく揺れ動くこ [このことは、を参手す・・・ に概定しているというべきであろう。

・七二年沖縄返還」 政策は二十五年にわたる

復帰なのか!」とただきつけられる怒り、拒絶でしているとことに言う人り、中華人、から、これが り、長くはあったが、「例外」・しての戦後二十一 ある。多くを語るまでもなく、「評細人」が「復ある。多くを語るまでもなく、「評細人」が「復 しかも独引な「四月副印」は、ますますそれを激る大闘争の中心になるものである。「返還勝定」 略阻止、日米安保同盟の粉砕・日帝打倒につ 『返還脇定』の最大の矛盾は、四分の一世紀に 「沖縄」の闘いが、日治のアジア侵

「軽率」な合動に、山中総務長官が顔色を変えてるかは、沖縄問題に深く踏込んな記事者はよく知るかは、沖縄問題に深く踏込んな記事者はよく知るかは、沖縄問題に深く踏込んな記事者はよく知るかは、沖縄問題に深く 五年間で、日本国の名で永遠化することがあまり これが、日前にとっていかに数命的なものであ

A、「返還協定」は矛盾 で言れているのとでき、解しなが ても、とにかく「髄 定」を批准して しまえばよだしてしまった)。 さらに、どんなペテンを使っ い、一切の矛盾と仮乱を押しつけて、佐藤は「引 共同声明とジョンソン派司、繊維問題の「密約」 から日常は、「脳定」が米減金の批准を要するこ のである。だがそれは確

展図として、これはとらえられねばならない。 闘いをもって佐藤政府を追いつめ、「返還協定」に「返還協定四月副印」の狙いを暴騰し全人民の し、安保粉砕・日常打倒への大塩繋の道を切開く の姿粘そのもの を破たんさせ、佐藤 内閣を打倒 し、断じて行かせてはならない。われわれは後前 こうした大ペテンがスムーズに行くほずがない 本紙五○一号論文寺ですでに展開されている 全人民の手で奪還する闘いの当前する中心の任務帝国主義の恐るべき支配を打破する闘い、沖縄を 保同盟を粉砕し、日浴のアジア侵略を打ら砕く闘 基地上して目夜行なわれ、施政権

返還によった。 選はありえない。さらにこの聞いは、沖縄を出撃である。これを回避し、これと安協して、沖縄奪

しかのりえないことは、『返還協定』によっ 沖縄百万県民の一切の人間らしい生活は、安保

B、復帰闘争を解体さ せる内外の攻撃

国復贈」を、とにもかくにも一たん「担当」するる。特にぞれに、県民の永遠の願いである。「祖 立場がないも のには、きわめて困難 なものにな 強い確信と深い連帯が 要求されることに のであ をからこう難いは、明像し、「名園第三」幹件のだが、四月側印阻止をかかげ「洛園第三」幹幹 こうして『驀躍』をめごすものであるから

帝にとって、沖繩県民の闘争力をたださつぶすこ 帰國争を最後的に解体する攻撃を強めている。 限使い、超区断的な「返運協定」を押しつけ、後政府・自民党、沖縄の保守勢刀は、これを最大

たなした、中華を核薬地・アンプ技術薬地の架として水準化するとはできず、「実施」な際の最大の超いもことにあった。取許・自民党・規権保守勢力は、たによりも「七三年記述」な際の最大の場合には、たいまない。
 たいよりも「七三年記述」な際の表

「反対するなら水にアメリ

な現実である。すでにそれは基地神祠の強化の下の、ある意味では現在の米軍文配よりも一層影像 つの、ある意味では現在の米軍文配よりも一層影像 かくのこと によって沖縄に長が「木土復帰」にかけた希望と正反対

「返域節定」と、それに伴う特例措置、振興法し

思考から出ている。「基地」と共存しうる沖縄は沖縄援助、あるいは「開発」投資も、全く同じ 政府の長期開発計画を募集する」等とのボーズを 失梱列島や西安島などの資源開発と観光地の対象 いる通り、あくなき独占の支配は見えすいている 配の対象となりつつある。本土政府は一応『琉球 は沖縄の自然の大規模な破壊と本土独占による文 とされ、前省は撤職した収奪の対象として、後者 復帰闘争解体の危機 の中に指路を見出す展望を確立することが、

大爆賞切りとして、「復帰合理化」のための質切で急増する本土への労働力流出として、全壌労の えられてはいない。「返還歸近」を粉砕し、日帝 然と担否し、聞いによって活路をひらく方向を与 いたるところに姿を見せている。だが、それは深りとして、「復帰軍上げ」という物価騰強として い。復帰不安。を呼びおこしはしても、それを決

の「七二年返還」政策を失敗させ、その大破にん

本質がそれと正確から敵対する以上、小子先の自『規雄の感情』にいかに配慮を払っても、ことの ・ が譲している。だが、佐藤がこの山中を 支え、 くらましは通用しないのだ。

民が、「神縄人」のすべてから、その存在主鋭く な顕行、一体となっ ことを意味し、国時に本土労働者人民への新らた 際民の闘いを日本政府そのものに このことは「返還協定」粉砕の傾いが、沖縄闘

> の力は強大であり、「仮帰」というパネが外されものとして組以敷とうとしているのだ。本土政府 あきらめと敗北にうちひしぎ、闘う祭力も失った。果の上に、県民を身動きとれぬ。ころに過込み、そして「一体化」をおしすすめ、鴉渓の既成事

いに聞いのきずなが断たれ

期待は、沖縄のこの気持をつきつけているのであ 抑圧道であり、敵対者である、とごれるのだ。」なら、「大和人」(ヤマトンチュウ)はすべて 強大な日本政府と綴うには、本土労働省人民が れた「社会党」への頼い信じの

考えたこともなかった既成左翼は、自からの危機のである。これまで、たたの一度も沖縄を本気で 本土『季新』勢力は、この目前の攻撃の手先と

を沖縄県民の闘いに楽っかり、沖縄を「利用」

である。沖縄百万県民の闘いをわれわれが目から うした日本人民の闘いを一つに合流させ、大爆発のが終力にということであり、本土・沖縄をと として、全力で励いぬくここが、沖縄問題の唯一 「返連協定」粉砕を日本階級闘争の中心課題

文配を許してきた本土労働者人氏の弱点を完良しのものとしてとらえきり、日本階級闘争の中心に もっと反動的と言うべきかも知れない。いることを承知のうえでそれを行ってい

異は、政府・自民党と何一つ変るところはないの いることを承知のうえでそれを行っている点ではである。現地から「願うもの」として明待されて 党・組合候園の『系列』に吸収することに熱中 の9こんで現地の翻いを圧殺し、最近では政府自の9こんで現地の翻いを圧殺し、最近では政府自 それどころか、二・一ゼネストにおいては直接 **す点では、本土既成を**

現地革新三党も、この本土既成左翼の下に組込

返還協定」粉砕の闘いは、沖縄に対する日米

内から敬虔しつつある。革マル形は、この動きにまれ「迅速略定」との綴いを決定的にねじ曲げ、 完全に腹応し、「蓮新」指導部をのりこ

過程に対する大衆的反撃を卒先して抑圧するに、殴りなく本土に屈服していき、「返避準備 なっている、との立場 認したうまで、その内容を改良しようとすることッパリと主張せず、「这選」を既成事実として孝 との恐れと県民の分裂を埋由に「返還協定」粉砕と努める部分においても、「復結」がためになる で至っている。なんこか沖縄闘争を持続させよ ルはより一層石質的保守勢力となっている。 関の最後の手兵となっているごとく、沖縄の率マルが、第二民背上して革命的左翼に敷対し、民 上別める部分にお としてといえ、「国政参加」をきらに勝利としてである。日共一人民党は、「七二平返運」を勝利 する青年労働者や学生学之の枠内に引もとして は、とにかく七二平復帰を実現する、との一方、屋良改権とその防衛を第一義にする 彼等の最大の反動性は、「返還酚定粉砕」を久 との立場を購骨に打出している。 参問らすすみ、沖縄はどんどん度を

日米安保同盟と具体的にかみ合った闘いだという (四めんにつづく) 今一つ順要な点は、沖縄闘争が具体化すれば を正確からかかげることまためらい、部分的改良

大珍生自治会の統一行動呼びかけ、はならない。にもかかわらず、沖上はならない。にもかかわらず、沖上 際の立場を堅持しつつ彼らの逃亡 芸聞会報にセクト的に踏みにじして、不屈の力を示したのである。 り、淡金主 義への建設 の状況下のり、淡金主 義への建設 の状況下あり、それを担うのが反戦派であ 長崎では百名

②微応的に沸物し、そして吸引し [長齡]十一十一五一七二年神 金属白ヘルメットの部隊貿易

いを觸おう」と提起し、圧倒的に [七二年返還] 政策粉砕の臘 | 網返還」政策粉砕・沖縄闘争勝利

二、日紀を激しくデモ行識、遷祝の一「返還協定」四月關印阻止の決意一によって移始緊張した雰囲気の中 る頃には、集会は最高期に達し、 が大学生自治会ニー名が到着す 集会は企通反戦の島田氏の司会

頭に十名の隊列は「返還」粉砕、 告次いでNHK区戦の鈴木進夫氏 四時、疏大全共闘の部隊を最先 地区反戦事務局長藤原氏の基額署 から沖縄特別報告が全軍労牧権者

無数に対しています。 一、主義の選供しています。 ・ 大きの「十・主義の選供」に対しています。 ・ 大きの「十・主義の「大きの「十・主義の「大きの」に対しています。 ・ 大きの「十・主義の「大きの」に対している。 ・ 大きの「一・主義の「大きの」に対している。 ・ 大きの「一・主義の」に対している。 ・ 大きの「一・主義の「一・主義の」に対している。 ・ 大きの「一・主義の、「 (べん) 広部岩の「本自の集会を「総までデモ主成関西にたたかいね」今の重要性が指摘された。各職場集会は、疏大会実総議長保栄茂」りを経て、一号線を通り、那期軍 年第の例をとりながら沖縄業遺閣集会に (流大会実総議長保栄茂) りを経て、一号線を通り、那期軍 年第の例をとりながら沖縄業遺閣 「沖縄」新選のかけ声で、国際通

15日、牧志ウガンをデモする百五十の労学高校生

問題を強引に突破するために、戦争・敗戦・定」はそれを確立すると見られる。こうした

との契約の一括引載ぎるを主張しており、「返費主の個別契約を要求しているが、本土政府は安全の個別契約を要求しているが、本土政府に対し、を 『返遺協定』の発効前に、全地主を各個撃破・引懸さ、一括して米軍に貸す方式を実現する。

第一次要綱が二十日発表された)と、「経済振興第一次要綱が二十日発表された)と、「経済振興

の販売に米民政官が直接乗り出すなど、狂気じみ

土独占資本による沖縄の食いつくしのための時間

のデモをからとった。 件下で敢然決起して、那朝田港へ

きで下がるという今秋蛟虹の恵条

動者は「女子車掌魔止反対ノ 私一十六日の中央委員会で、婦人労

で本部提案粉砕

本部は合理化提案ができなくな一鋭い糾弾の矢面に立たされた。そ一そして、一気に、二十五日に中央

「単学の質切りを単学のいないと 団に図追する。「傍聴を認めろ」

交通当局は、都電撤去と同時に一直が大幅に狂ってしまったのだ。

関心すら示さず、排外主義的にその手先とな ある。これこそ、日帝の思うつぼといわねばなら 総県民の生活」をめぐる字いとしてしまうことで 基本点を約し去り、経済主義的に矮小化した「沖

既成左翼は、そもそも日帝のアジア侵略に

き得され、日帝の「開発」のペースに引込 の影響によって、現地の強い「反反」の意識がか

い。「米核敏略に促腐する沖縄返還反対」なるスの沖縄闘争論の反動性は特に強調されねばならな実際の影響力はどもかく、この点く、塩マル派

定」の頻繁、審議は国会の場が重要な役割をはたビを見る大衆とされようとしている。「返還的

すが、そのことがかえって大衆闘争を解体させる

護員によって、神縄の大沢図争はすりかえられ、 存と減会主義である。国会に辿りだされた と、現場での改良的個別的反合闘争とに解体する

「物定」粉砕を沖和自立論や、不主からの離反に直結 この点で、調いをぶめる人々い内から、「「公園」

むることも伝感しておか

まずます課まる不士仮

「巡邏協定」をめぐる届いは、院内の演説と

バイや日共党員を主力とする

て中に突入した。労働謎のスーずさんきわまりないものであるこ

BHIDGOODBERNEEDOODGAGGIIL

十一月十八日、河南の合地に面面、略打した根文本部は、中央省員会を開いて、「企材ファンカー東大・シェ東全部」の対象を表しなことだって比較し、単大・教会を中心でいる情報があるいるというで、このなるを表現し、当時の各種には民間機能であった。したい、このは、サナバ・五女を表現し、当時の各種には民間機能にあった。したい、このは、大きが、五女をおよりのとなった。このは、大きな主義を思して、当時の各種には民間機能にあった。したい、このは、大きな主義なののをいまった。このは、大きな主義なのが、10月には、一日本の主義を選出し、当時の各種には民間機能であった。したい、このは、日本の主義など、10月には、10

は無対ス会会を、するし、中 工作能の理解を会地を参し、公人としません。
 ながしていません。
 ながれる会社を表し、
 はいません。
 はいまたん。
 はいません。
 は

婦人労働者の怒り爆発

たって、婦人労働者をゴボウ抜き はさらにもりあがっている。 独いた。早朝七时から三時間にわ はさらにもりあがっている。

しかし婦人労働者の闘いの意気

組合本部の首切り提案に揺がす

急担パス三台をチャーターレ、中 に会場の変更を挟めた。そして、 に会場の変更を挟めた。そして、 を出すれる者はいなかっ

当局は、四十二年度に再延七カ
当局は、四十二年度に再延七カ

しまう」との立場から、組合本部 座すれば、質上げも行きつまって

理化推進の手助けに出たのた。す 破塵した再建計画に労物者の立場 しているのだ。

腹落している。

本部の方針よして打ち出すまでに た。東交反合関やは卵入労働者のの女子事等の割切りを公然を組合 いま先頭 になって胸っているのの女子事等の割切りを公然を組合 いま先頭 になって胸っているの本部の方針よしている。かつては最も弱

図 の入管闘争への敵対と集会破壊策 と流し、集会破壊を画策したが、

ことができなかった。彼らは、大って、大手前公圃に一歩も近ずく

から反対するのでなく、当局の合 ところが、東交本部は、当局の

べき裏切りをやってのけたのだ。

れに服従しているわけではない。

(十月十二日)

しかし、励う組合員は決してこ

闘いは前進する 臨時大会へむけ

東交帰人労働者の闘いは突き迫ん 炎により、再び灼熱のように燃え

の集会を認めてもらい、デモを中 (日本商子検等)が快感を表向しの集会を認めてもらい、デモを中 (日本商子検等)が快感を表向した。 というな優先を到ります。 というない というな

阪府警に泣きつき、申請別限切れ が増上に並び、団長の野口提世氏

とった、横浜の七〇年安保被告団

士二月八日の臨時大会にむけ、

(三めんからつづく)

縄から行われているインドシナス店の出述や、寮一

国主義の防衛体制としかとらえられない。だから 中国スターリン主義の「大統治」に対する、

一般的抽象的な「安保・沖縄闘争」

が合理化案を提案するという難く

る東交本部 首切り容認す

にするため暴力がよるわれたが、

図 女子車掌全廃許さ

|増大してしまったのである。 その

埋めることはできず、逆に赤字は「きづまりを「一気に打削すべく」「六六年十月不当処分撤回闘命、穴に、再建七カ年計画は何ら赤字を一すさんきわまりない代替計画の行「六四年新宿・大久保統合反対闘争

労学市民総決起集会」へ妨害策動

一・二〇大手前公団へ」なるピラ に出た革マル派は、ふたたび「十 への書きかえを認めよく 今天阪

上、都能にかわる代替交通確保が

耶夢全院」を何と組合方針として 揚げたのである。

一 七年再建大合理化粉砕の都議会を 大八年三の輪闘争、と回い統

けてきた東交労働者の気迫は決し

の「採択された」合理化案を、十一ペテンであることもハッキリした

)臨時大会で確認すると

再建計測は明らかに破産

すでに東交本部は、 「金線ワンマンカーの導入・女子

本年書でに

されていた二十一日の中央委員会 会場変更し逃げる

> ら、会場に押し入った。またして 当局の破産とともに地獣に落ち 化をすすめるのか」「お前らは、 に合理化案を出すとは何ごとた」ころで快めるのか」「組合のくせ

と減しい怒りの声をあげなが

トラー委再腕を強行しようとしたのだ。 ます強闘となり、二十五日の中央しかし、女子単掌の意志はます の大多数が結集した。これに対し委には、会場の私鉄会館に帰人品

クラムが観光れる。「組合による「傾は、恐怖で育らめた顔をひきつ」 ARTS WIEL 1 とったとなり占拠した。ただちに、ス に入った。すると、日共宗中央委 ・延期の確認をからとった。

ることはとうていてきず、自動車不足のために、現在の欠員をうめ

反動的なのだ。革マル部ととっては、現に日々沖反動的なのだ。革マル部とうとする点で、特に既成左翼以上に、目的意義的に沖縄闘争をアジア

「バス路線の再編」され、選転手 ある。(宝月二十日) しかし、この 今度はバス部門の配転・統合・随 替計画の実行不能が顕著となり、 てきた。そして、本年になっ 都電労働者に配転・再配転、 転手の圧倒的不足により、代替計

否定することに緩重点をおき、返還は実現さ ローガンをかかげ、わざわざ目俗のアジア侵略い。「米核敏略に従属する神縄返還反対」なみの沖縄器争論の反動性は特に強調されねばなら

縄の大衆は紫朴なまでに

「国会」を信じる傾向に

りとふまえ、それを実現するためにこそ、今こそ養である。「復帰」にかけた県民の熱望にしっか

のすべて空やり座そうとするのは、別種の敗北主 的にこれまでの『復帰顕争』を消算し、沖縄闘争 ならない。超反動的な「返避協定」をつきつけら 協定」粉砕を沖和自立論や不主からの離反に

これを担否するという正当な立場から、

り「復帰」を子コに田服を迫る目帯から、大衆を「返還」を拒否するのだ、という立場に立たぬ限

特に議会主義の反勁性を含く実感していない中

しまった、として、沖縄闘争を改良と反合語

これに加えて、選挙によって抉定的となった革新あるため、闘争の危機は恐るべきものがあろう。

航争・引まわしによって、沖縄の大衆闘争はこれ列化、特に目共と社会党による、恥も外間もない可能の対立と復帰協の分解・本土からの虚引な系

事務所、収容所に対する闘い、反

えを法務省の弾圧を粉砕し各市町 要求する在日朝鮮人の国籍かきか

村に認めさせる闘い、各地の入管

返還協定。四月調印阻止・入管法再上程阻止 山本全国全共闘議長が挨拶

22日東京

沖縄闘争への激しい意気ごみを示

『鹿兵』指側強調印に腹骨、大一戦の今野湾は、東水大会観の物質・われわれな日常に腐っているだり、複質できょう。そのためにおい年・で推倒・美の女祭にさらされなが、興戦争の木格の政勢への次大を短く倒きや文権観覚 丁愈一 全体操作は、年後すで、全国区一つていられわれ自身の歴光。「今一度企関の大学で全共開発動を一致は初かるおこはったこのも元米、古せる収穫薬を変さ、入は・井の町)

する同い(観さん支援関争、

・ (本学の大学の表で、古典、実際で、万学の表示。明 ・ (本学の大学の表で、古典、大学の表示。明 ・ (本学の大学の表で、古典を表示。大学の表示 ・ (本学の大学の表で、古典、表示)、「一

南は沖縄まて、全国津々浦々で、白ヘルメットの労働者、学生、 人の労 こめ、一担めつくされ、この日の願いをパ

自己を敷しく点検し、質量ともに | 本に本格的段階に突入する人管・ | 差別意識を点検せよ」と訴えた。

て締められた。北北北部暦から、よって自められたが、会報中央は「すと言かけ外国人の人国が表れ、もとっなとこと飛行する。城中で「正とむけで十二・九」○会証反動式、学生、市場、高校生によっ「国金共興、行か会国区域、市民に「本人は、などが特別な機能を表だ。郷の利率の中、13 金数解析がなか。 シン、自然家の所国主義服務の 会場は、演獲にむかって左が全一法の攻撃を疑勝し、「われわれ日一義隆全国会共搬職投ば、資場の方

ならない。(写真は二十二日明治公順)

 五全国全共岡連合結成大会で不 ついて、東大阪争以降八ヵ月余

> デモを貫徹しぬいた。 し白ヘルの大部隊は、それを司と

しかなく、七・七、十・八集会で の大管闘争は、理念的なもので 野勝氏、

ベ平連の相見良行氏、

各団体を代表して、東京人会闘の「われわれば、①人客体制粉砕の闘いを可含にはじめられ、まず主催」うだけでは使じて完良しえない。

しかしそれ以降の劉彩品さん

中し、全力で買いぬかればならな かがこの入倉闘争 にか かってい U回時に 「沖縄返

存在であることを自覚し、

養婦させることを誓ったのであ | 表が、集会宣言を力強く読みあげ

共闘は、本集会の山本議長の戦線

さつをおこなった。

清水谷公園で集会を開き、高校生も

全国反戦の集会は、長崎県反戦

校に厳窟に監視するよう遥遊し、 | 校生を結集して闘われた。 生人管闘(年)主催の横浜収容計

であった。「独立論」や対阻しない限り、奪題は郷職争を何ら真剣に考えようとしない者の遂ばす

「復帰にかかわる」ことを避けた空語であり、

寒環論に対するすべての批判・反極は、この、

この願いに対して、区教委は各

全国全共闘、東京入管闘、ペ平連

【神奈川】十四日全神奈川高校

で粉砕して「復帰」を瞬いの中に位置づけること 第二に、沖縄の現状打破には「本土復帰」が絶

第五に、この闘いは、日米安保問盟を粉砕し、

反戦、広島県反戦など七県の反戦

集会は、最後に関西人管脳の代

劉彩品支援全部連絡会議の代表、さんの闘いを全力で支援してきた

などが独自集会 全国反戦、全共闘

全体集会に先き立ち

所

ハヘデモ 浜収 神奈川高校生七十名が

容

た本土の責任において、一体となってこれと綴う 地の県民の苦悩をわがものとし、それを許してき

と同時に、のわれわれ自身は帝国
| 集会でのあいさつが、議長上して

などの外国人ペ平地に対する

今一度全国の大学で全共闘運動を一政治語動をおこなった 十一月以至統一数告回出務局兵、 れる北部士級卓母の会(メッセー ん三度にわたって米軍の実弾演習

|におよぶ地下生活を強いられ、九 | を前に十二・六三里塚全国結集を 選協定」四月照印組止の一点に集 衆)のもつ力の強さをいかんなく 発揮した三里塚芝山連合空程反対「る投石の反響に起ち、数域にわた一衆)のもつ刀の強さをいかんなく」は、全美國の部隊が機動隊に対す 訴える北原鉱治事務局 以 このか 国家権力の攻撃=特指法との関い □盟を代表して、追いつめられた | って検動隊を追い軟い子県政な職 十日からの第三次強制剥撻の攻撃 集会は、つづいて各戦線からの 一ル反戦の部隊の背後から数十落の一ガス第8分まし、一人 ガス動を浴びせて発復した。 の日のデモは、国会、法務省に

解散地で

これに組せず踊った。

命運動の大原則に立った第一の点からの当然の帰

結なのだが、わか革命的左翼諸派はいまだにそれ

的威信が困難にさらされ、アジア侵略と安保同盟の同盟を阻害する要因をはらみ、日帝の帝国主義 が日帝にとって探判な自己矛盾をはらみ、米帝と を放棄したのだ。これは、沖縄闘争の立場を

なのである。

しは同時に、「沖縄返還」攻策

ないゆえに、すべての批判者は沖縄闘争その

さないはずなのに、それもし

止を「探戦」と位置づけたのは、沖縄奪望論ゆえ 保闘争として 設定し、 大九年十一月佐藤訪米阻 明を要すまい。われわれが七○年闘争を沖縄・安 保同盟総体をぶち破るものであることは明白であ策」を粉砕し沖縄奪還をかちとることは、日米安 できなくなったことの表れであり「七二年返還政郎主義の沖縄政策の転換は、旧来の体制では維持 日帝打倒につき進む中心境だという点である。 るのだ。この点で、入管・反策闘争と不可分の一

これが日常に快定的な打撃を与えることは続

各校教師を徘徊させるなど

反収連絡会議からの「剪幹種」 里塚現断の杉森信一氏の十二・六

らり、収露所的的では、 直校生は本牧公園の集会の候、

を安保粉砕・目帯打倒から切職すことを担念

われわれは「沖縄参選」

とを見抜き、大衆的闘争刀を爆発させる城である による日常への全人民的反響を招くものである!

『七二字返越』蚁策は、日帝にとって、順風綱

第三に、これは日本帝国主義との正国か

と独自の侵略のために「沖縄返建」を保おう

「復帰」にかかわる同題を回避す

は「返還錦疋」の反動的内容で、「返還」を仮に

要現すれば沖縄の現実で、ますます明らかになる

金正しくふまえ、あくまで

て願い抜くことに、沖縄奪遅論の水統的正しさが もそこに喰いつき、逃げることのできぬ立場にお

「返還協定」をつきつけられ、超反動的な内容

しかし「復帰」がなされようという

日帝が、その帝国主義的威信の強化

一つく「水住権」 申請期限切れにと いを大質・沖縄闘争こして大爆発 もなう韓国籍強要の攻撃、そして

苔し、企学運(金山委員長)代表

回 う」と提起した後、「沖縄返還破 ・ 四月間中阻止にむけて快感姿 ・ 明した。

、 たてまたベ平道も旧民集会をおしていった。 水谷で集会高校生は清

争への総決起を訴えた。

ではじめ

上する

反

破板の

飛

大阪市職青年部、全大阪反応常任大阪市職青年部、全大阪反応常任 幹事会の三者共催による「朝鮮籍 の大阪駅への短醒的デモを貸額し 集会は十一・二二首都総結集へ 任 満評の辭者の集会破壊をうちくだ 松半ごともに四百名を結集して行 校半ごともに四百名を結集して行 か インター、フロント、解放派の高 西五十名をはじめ全都全国から粘

会」を二百名の高校生を桁集して

すると同時に、そのためには「協定ができて

反戦高級は杉並産業

首都総結集へ決意固

撤し、全体に合流した。 を対した。 き、インター、フロントの高校生

横浜反戦が決起集会 きつついて、毎月一回の入管定期

することは、すでに敗北を認めることである。

集会は、青年アジア研究会の梶 たえるのか」と同い、現在人管闘 で「在日アジア人民の告発をどう 集会は、ますこの日の集会の任 の基職報告が讃記局の藤岡君 入管総力収の軍大な意義につ

史と現実」と超する講演を一時間 のなかで講師梶村氏を高場の拍手 会場はすでにつめかけた脳校生

出し、「返還協定」を洗蛇させる確認な道なので

く うけた。つい最近全員奪退をかちいる 翻發告、神奈川反戦のあいさつを一次 田玲氏の講演の後、横浜反戦の基

重な示唆と深い感銘をわれわれに 、数多くの費 つめ、護印を撃らせ、すべてを破産させる場へと 聞いまさらげ たのである。

生れたのでなく、実に三年間にわたる「安保改定安保闘争の高揚ば、抉して「五・一九」によって 阻止」の闘いの積上げによって、調印を遅らせ、 して決定的な位置をしめている。かつての六〇年 **かえんし、最大の力である
現地の闘争体制は崩れ** 十一月決戦以来、沖縄闘争に対する政北主義はま たて何し、再び沖縄闘争を高揚さ せねば ならな 残念ながら、情勢はすでに遅れをとっている。

両者は、アジア侵略に対する帝国主義内部の人民郷をとり上げることを顧問として掠ぎする。このましてや華マル派のごとく入悟を纏わぬ代りに沖ましてや華マル派のごとく入悟を纏わぬ代りに沖まして 腰螂としてあり、両者を独自に、共に徹底的に関 神縄闘争を、安易に人質関争に「結合」したり、 挑んでいる。入賃法再上程・法的地位協定期限と の闘いとして本質的に共通するが、むしろ違った

い抜くことが必要なのである。

公労当切り反対職争、自海察護運阻止職争、中域 それを大衆職争として挙止げることかる。金軍 等の首切り反対職争、として挙止がる、との難りが挙し続い、それ 変を具体的に対解し、その額別が挙し続い、それ 北富士闘争連絡会発行

効果となり、本土の左翼のエゴイズムより、日流は(奪遠側に反対する者は僧そうご)、それは逆

は「革新勢力は復帰を妨害している」と大宣伝を の方をたよることを助長しかねない。 みにじるものとして「返還筋定粉砕」を口にすれ ならぬ。本土においても、軽薄に復帰の熱望を降難な任務であることをあらかじめ覚悟しなけれげ ことである。これは特に現地においては、

第2号 6日発売 空幅码

前進社でも扱います

撃破の攻撃に立上つうとしても、これまでのよう 备

することは遠巴の口突に外にならない。 **奪遠回金を資報するか、「返還歸定」に掲版し、 沖州闘争ご 担う立場は、「返還勝定」を粉砕しは試線にかけられ、次々と飯能していった。いま**

> 14」と「統成事义」の重圧によって、きわめて国 とで現地・本土をとうして関う人々に浸透させる

砕」をかかげ、「四月朝印阻止」の行動を これを収除くために聞い抜くことである。る基地と分離支配の下にある沖縄の現実を 沖縄奪還論の中心は、第一に二十五年間にわた

・大衆が「返還協定」に駆りをもやし、 C、奪還論こそ「返還

協定」粉砕を担う力 沖縄闘争が「展選協定」という具体的な形式

った。われわればこの立場ゆえに、「返還額定粉倒」の関いの中心としてかちとるというものであ 容とする「沖澗奪迦」を、「安保 粉砕・日帝打「永久核基地化反対、本土復贈・基地撤去」を内

けているのである。

協定」四月瀬田阻止にむけ 翻いの報告がなされ、最後に沖縄 県反戦佐久不治氏が、「沖縄返避 社研久保田達邱氏の新組合結成の 全国全共闘の集会は、鈴不優一 戦高協

対する、直接緊急の阻止闘争だという点である。

「七二年返産」政策が、沖縄問題の消極的処理で

のアジア侵略、なかんづく切解・台湾空範囲とす主義によるアジア支配防衛の新軍学体制と、日帝

という確値が必要なのだ。

む復帰の道であり、日本人民の解放への道であるむ復帰の道であり、日本人民の解放への道であるという立は、われわれの手で神縄を奪還するのだという立 のためらいもなくこれを担合し、粉砕するために

ている。われわれは、「返還筋定粉砕」を明確にに入った。政府は「返還筋定」綱印に全力をあげい過寒遠國登は、今や「時間」をめぐる顫いに 打出されている以上、沖縄寒遠闊争は、二十五年る目衛隊による直接文配体制との二星の要として 四月調印阻 止 へ闘いを急げ

くることが、交渉を行詰らせ、日米園の対立を引はこれ以上悪くできない、という点が山ほどでて つ一つについて、人民の反撃が展開され、この声い。その闘いがひろがり、山積する交渉事項の一 れは「返還勝定」粉砕の行動をおこさねはならな・調印を前に交渉が行われている今こそ、われわ 見て、それが反動的だから運動がおこるだろうと 人民の反撃が展開され、この項 は、本土・沖縄をとうして、革命的左翼諸葛流がは、本土・沖縄をとうして、革命的左翼諸葛流が中の前継令の総連合をもって、沖縄諸争を再建す その中に聞いを引込 強く促したい。本土・既成左翼・現地率新指導部 ・草マル訳が、 一五現地における神大のよびかけによる統 「四月鷸印阻止」のために、力を合わせて 一体となって返還協定に阻服し、 を終える。このためにも十一 的に拒否したフロントの反省を

をつぶすことは至難の梁である。「返還協定」を条約は闘いの結果であり、それが固った後にそれ 具体的な攻撃に対する大衆的反撃こそ、沖縄騒争石油基地や下地級パイロット基地反対闘争等々、

与え、「巡邏協定」を粉砕し沖縄を奪還する道を 命的左舞こそ、沖縄の闘う大衆のすべてに越撃を

この聞いも重大な局面を迎えている。われわれは われわれは、日帝のアジア侵略に対し、

再び繰返す。沖縄闘争は「時間」の争いに入っ

ローガンの下に、対決が「返還協定」粉砕にしば関いの任務は、「返還協定四月調印阻止」のス

2、だが彼らに対し日 自然/進しかいことで、われる人は何であるのか れ日本人の裏切りは要求してきた あんぱしんがいことで、わまれたの裏切りは要求してきた。

の急激な進襲は、同時に、日本プ

際して、あらかじめ獲得された共 の党服を推しすすめてゆくに だが、われわれは、その排外主

の地平自身の切開を通り過ごして

しているのである。

性をとりもどすことを被らは目指

日 は リの人間的叫びとしての民族の尊は リの人間的叫びとしての民族の尊は リの人間的叫びとしての民族の尊

日本帝国主義のアジア再侵略へ

即ずべき現実を徹底的につきだす (の) おわれの抑圧民族の一貫としての (本) おり にしかかかわれなかったわ (本)

に 自己の民衆性の参加をあったいたこ ・ のである。しかの自己を表表さい版 ・ のである。しかの自己を表表さいな。 ・ のである。しかの自己を表表さいな。 ・ のである。しかの自己を表表さいな。 ・ のである。しかの自己を表表さいな。 ・ のである。しかの自己を表表さいない。 ・ のである。

帝国主義は、今日的諸矛盾の中

国民的経階層のなかにうっせ一であるというとと、そしてまた日

させ、あまつきえ、医療教育を弾
たな、犯罪者のように指数登録をもたせ、犯罪者のように指数登録をもたせ、犯罪者のように指数登録を

の本性の全き疑惑以外のなにもの

なお刺さんの難い、さらにそもで 問題における自己批判を通して、

プラブない。少年たらにしいられて さずない。少年たらにしいられて とく すずない。少年たらにしいられて さいますを受けませい。

「かればいうまでもなく「日本

日帝のアジア再侵略の歩みこそ

、 われに対する料弾である。七・七 く問うもの、これは何よりもわれ (開鮮人民)の願いと生活が散し っ

い、さらに多くの在日アジア人民

がら、その苦しみを共受できない」とはいいのであるべきでありなっている台湾の大衆……自分がそ ● ……」(劉さんの総括)

させること、このことが帝国主義の国族の主体性を断乎として認め

としてこの事が問われているので、っと年以降の新左翼に日本民族の責任。のビ

に するわけにはいかない」(音(15) で っと『數』に変明できた自分、で で っと『數』に変明できた自分、で で

ためにもかつてない激しさで要求。自分自身のためにも問題の

「このような帝国主義の蹂躙を受 ≥) されるようになった」(著作地

のピラ(5))「追い込まれてや「四として欲求する福民地人民の快民を裏切ることです。」(劉さん」の構成員としての存在の認知を断

民族の認知、自由な独立主権国家 と自己の権利尊重のために闘っ

の顕物である。そして今ま

による排外主義イデオロギ

|関与しない意識、これこそ文配者||向を求めることです。 日帝の南朝鮮、台郷文配に対してが(結局は甘んじてしまったが)

が(結局は甘んじてしまったが) 「八大炭酸へ 行く、紫券 をもら | と自己の権利尊重のため 「米等の日本支配には反対する一す。」(劉 さんの『理 由書』)] で耳己を漉漉する……。

人間の導致を守らんとするもの

民の告発の意味するもの

れらの攻撃の内に孕まれる内容的

きく決めた日本帝国主義は、巨大侵略へむけて七○年代の基軸を大

日米共同声明をもってアジア再

日帝のアジア侵略攻撃の宮崩ら

沖縄返還協定の四月謝印の策動を 民への抑圧と監視の激化、および 法再上程、日韓法的地位協定の一 ンボで進行しつつある。 月期限切れをめぐる在日アジア人

が急速に展開されてきている。 の構成を根底から破壊する攻

- 1.1 1920 日本プロレタリア 年火製の練む 海波性機を発生した。 - 1. 人民の安都な機能が長輩 は火間がつきないる。モレスの単・セのが化めて、魅力を伸び、も、を対してきないる。モレスで減りとなってはは、はらない。
- 1. 日でもまり、
- 1. 日でもまり、
- 1. 日でもまり、

た連帯への血の呼びに対し、とうかいとろうとする被抑圧人民に対かいとろうとする被抑圧人民に対 表 はかれているのである。 はかれているのである。

華青闘の弾劾

、在日アジア人

- 人国の不屈な攻撃性をつく | 又を日本人の前で示さなくてはないがます、日本プロレタリ 関、天営局が言心して入道的ボー大変質に対し、われわれは | しか見られない。……この四ケ月 日アジア人民のその偉大な精神の

こったが彼らは、すべての被抑 性種民地民族、まず第一に東方 魔務があるからなのだというこ においても) わからないという けられなければ(物的にも この観さを抑圧民族は、 この解さを抑圧民族は、つきついうことの一つの重大な側面は ないであろう」(レーニン) が設

人の個い作に被助は国際の機 の機により事業を回収する。 で、機能とするならは、それ(劉彩 を受援職等)は日本ではこって、 のでは口縁を回収表面に全市 のでは口縁を回収表面に全市 のでは口縁を回収表面に全市

これを私

前に、われわれ日本人はなんじな

前配柳綸文においても「劉さ

| 彼らほわれわれ日本人の中に本当 りたいならば自は知りたい] (劉さんの総括)と ないのである。

大部分が場外にも社会主義をう 大部分が場外にも社会主義をう 民族一般──これらは級のプロ国の動労大衆のあいたに、抑圧 抑圧してきたことは、複抑圧勝 する個悪だけではなく 不信の レタリアートも含めて一に対

たって植民地民族や派民族を

切りの日本人たる既成指導部を

と ないのである。日本人が人機であれれ日本人が高まることもありえ

【「帝国主義諸国が後年にわ だの発 王義的問題性をしっか一のである。

りとかせる。これが必要である。 りとかせる。ファート人民、民 によっては、自分の全転が緩緩。 によっては、自分の全転が緩緩。 アシアー民、に援助することで、る たいなる。 日本の親切りによけ たいなる。 日本の親切りによけ たっては、日本の親切りによけ

いた。今には存在に入していて、中でなののギャリンと表すとは個別面の回転して、人工人に発生を からっても原金にして、の間はられたの。年間を使われる。 からっても原金にして、の間はられたの。年の を対象を対象を、実のいたけの様でも感情に発 を対象を対象を来る。 のいたけの様でも感情に共 を対象を対象をを、実のいたけの様でも感情に共 を対象を対象を表する。主義で対象のつてきしまって のから、対れれ日本の、いるのではなか、こうだ」 説の全動労大衆もこの かつ仕事を成功的にい自己点板を要求している。 実際、その精神にお

統一のために自発的

り、入客攻撃は中国路線に従う。 対策に一元化されているのであ に 類しつつある。北朝鮮。)への っ

る自己批判と一体をなす

の連首」「彼らの闘いの徹底防

・動興された国衆の

人民 民の激しい個度の服差しの中にお けこめるもの)として自己解放の 在日アジア人民殺りくの共犯者と 止みがたき欲求として、あるいは の生き方(その眼花しのつきささ 水統的に問われている自己 無条件支持」の立場に到ったの

言葉をかえれば、在日アジア人

目前の免罪から進んで、七〇年

縦 にかかる反常・反スターリン主義 か れわれの七〇年代極路線は、まさか れわれの七〇年代極路線は、まさか れわれの七〇年代極路線は、まさか はいかかる反常・反スターリン主義

これに敵対すること 手生かし被抑圧人民の聞いたス

動員の嵐の中で、階級性を具に駆進とする民衆の排外主義体制への

この手本こそ、困難な条件 の下で、安易な前衛や連帯でよ せつけすきひしく関うアシア人

その水準にみずからも達するも

防衛および連帯の闘

■出入国管理法案

柳文縣強制送遼事件判決省

いは臨われればならない

侵略・侵略体制の事実の京及を基

日帝の『閻接投略』論に公然と一革を不断に置いてゆくものでない

りぬくことを問われているのであ ことをいかなる困難をもころてや里砲火の中でつらぬくこと、この

建さに、かかる深刻な自己の変

員され、自ら襲撃者への形態を

排外主義的堕落とスターリ

結合の内容が厳しく問われている 大衆の関係であるが、党と大衆の

単に戦術的かつ方針的に支持ご

担い手の形成と影響をもって、

の立場の絶えざる変革に規定され

は上、フランン・ファイス 関語等。更に「小坂ペドナム人 ・ 「以上、フランン・ファイス 民族解放の要求に対し、 まな戦略であり、 スターリン王戦=敵対物という)文配の非人権性のあからざ その反帝・反スターリン いる抑圧国人民への血の

の結果、抑圧団プロレタリア 民族解放の飼いがギリギリ、 のである。その根幹は、彼らの れた現実論から遊規定的に接近 ト人民の自己犠牲的援助、防衛 世界革命の不暇論に延続づけら

既行

のである。日く「わが禅

最近においては、文字細り、

を づくるものとなるのである。 を づくるものとなるのである。 されることで「アジアを反帝・反との内外にわたる闘いとして真徹

おとた衆の関係を形成してゆくこと では、人の生死を回うものとして では、人の生死を回うものとして

てはならないのである。

かかるものとして、入管闘争に

の大分裂を推しすすめるへゲモニ 党はその抵断を民衆の奥探くへも 実際的ではないのである。

ーを獲得しうるのであり、 を防衛する幽いをめぐって、

る物質的条件こそが内乱への

2、内乱を質ぬきうる

党の水準

き 人民武装でありソヴィエト関争形 に組織的表現 (その最高形態が全は に組織的表現 (その最高形態が全

(そこに到る抑圧国プロレ 人民の人間解放への覚醒 「われわれは……」『音器語名に にしなければならないにブツケデイル のだ。」 日 く る党の内容についても 民族的反感をそのまま日本人民 中で、

なくてはならないのである。

郷)を与えることはできないので

マル学同機関誌

われとの接 骸に、アジ ア人民も、「破壊主義団体」 たるわれ ジア人民)の防衛という場合で

を化のカデをなしているのである。

置し、日本プロレタリアート人民

(在日アジア人民)を郷地に追いやぶものであり「党の体制」 ことに対対な体制を基礎に異体 的連州、友好、交際の道は透遊

されなければならない】

の願いの道、その飛縦の方向性を

一蔵の弾圧に組しない勢力!

二、入管闘争の深化・発展を推

一 義一的傾向の概念内包してきた。 一 そのことによって「日帝打倒主 ったことにある。それは日馨脚 的意義について射弾化しえなからいうことを含む)の世界革命 パルタクス九四号)(何という)なければならない!」と」(スピなければならない!」と」(スピなければならない!」とは、スピない。 い。『諸岩は被抑圧民族の立場

排外主義だろ 巻 しかもかれらは次のような論一関示したこと、そして当間する七

って相以地と同一視」 → 「植民」 今の中で、党であったこと、そしの支配」という単純な経路によ うことは、実にこれまるの階級圏 形態転換は無視され『帝国主義現代帝国主義の対極進国政策の 推構造の相違の無自覚』→「後|党であったことの全責任を徹底的 配国国家権力の法的独立、現存 後進国国家権力打倒をめざした に問われることを同時に意味する しかし、アジア侵略との対決 な意義を有しているのであるが、 で抑圧民族たる日本人民の中での

△5、人管解がからっている決定。た権力のデマゴギーにもとづく日以上の点に立って、われわれが、命・財жを破めたうとしている決定。た権力のデマゴギーにもとづく日以上の点に立って、われわれが、命・財жを 破壊しようと してい

L

、日本階級闘争の飛躍を

って、根本から日本階級闘争を結ってある。果してわれわればこれをおれれれば、人善闘をとことにより実的事実をわれわれは見ているのが状をわれれれば、人善闘をとさらに「果人の自着団的動員を、すてに要

| 日的本質に対する不断の自己批判

- にもとつく日本民衆の朝鮮人總本民衆におこった権力のデマゴギ

(版) は、入意問題に内在する、日本人 は、入意問題にして、自己の階級性 を取得することで可能とするもの で取得することで可能とするもの は、入意問題にいて、自己の階級性 で取得する。

| すなわら、物質的重みをふまえも の決定的内実を規定するものは、

会の全領域において変革してゆく。単なる過去の一類観事としてだけ

「『南北の統一の追求』もスターでこにおける『民族解放闘争』 の意味を本当に明らかにしうるのと

リニスト兵を党を主要な実体と、・アジア侵略へのエスカレーション、ト兵を党を主要な実体と、・アジア侵略へのエスカレーション、トニ州の領域の、は、では、これを内、シースト兵を党を主要な実体と、これを内 (超を解けた保険は、ひょうだは、

そのうえで実践的問題を見てい 脳いを異ぬくのでなければならな

一、人管闘争の決定的すら、右翼むよび目共に指導されて収率的に立ちむかう力の過ぎではないのである。すでに十一月試験の中においても多くアクは解説変換的に立ちむからついるといっても多く

である 殺りく者へと転落するか、それと あるのである。【すでに山脈にお排外主】闘争が、抑圧者の道にとどまり、 され、民衆はそれに動員されつつ る敵対的騒動と抑圧は深々と展開

に在日被抑圧民族の決定的抑圧の

の要革をつきつけて全力を尽され

(六めんにつづく)

決の道なのであるが、この実体的構造だりの関取上

学生運動の革命的飛躍かちとれ 入管闘争の深化・発展を推進し マ ルクス主義 学 生 同 盟中核

されたものとして一回的に確認すしてきた傾向が強かったのである。

を準備し返めているのだ。昨日

 新たいのほの歌のなから、ごろきだは自分の歌のなから、ころきである。
 大きのであるないである。ころである。
 大きのであるとは、こうさんの歌の歌のなから、ころでは、自力の歌の歌のなから、ころである。
 大きのであるとは、こうさんの歌の歌のなから、ころである。
 大きのであるとは、こうさんの歌の歌のなから、ころである。
 大きのであるとは、こうさんの歌の歌の歌のなから、ころである。
 大きのであるとは、こうさんの歌の歌のなから、ころである。
 大きのであるとは、「おきのでは、「なきのでは、 割、新河水の出現は、国際的な けられる」「実際、民族の上げ いたの金融的な過程の中に位置付 いたのでは、それゆえ人機解放 一それは、極めて本質的な問題なの 殊な形態である極民地主義に対 植民地主義集団の不可避な退剤

で文明組設にあずかりたい

(4) 民族解放闘争は世界革命 の有機的構成部分たりえ、その かめてゆくのである。 の国際主義的性格を決定的にた それはまた、帝国主義本国革命

なり、のである。つまりこの種に ターリン主奏な、アッチ人民に対 切っている(解 仮一七二 よれわれば、自己の反布・反ス 切っている(解 仮一七二 よれわれば、自己の反布・反ス いてスターリニストの単純裏返ニスト順対策の国内版」論にお ※ 著行し (それによってのみ自己) できる条件の下にあるから) 、 という回題として、(?)まず被 という回題として考えるべきこ MONE 和E民族プロレタリアー 件の下に決起した被抑圧人民の ない。(1)全く相翼なった条 これに対して、抑圧国プロレタ 抑圧人民の闘いの主体的自己解 ように明らかにしなければなら、植民地革命の意義について次の ↑人民の願いの问盟・統一はさ

華マル派は、この点での問題 る(後継国と極民地の区別がわっしりン主義者がそれをやっていった。

からずに上でもいうと上で)の たから、アシア人民の民族解放い だから、アシア人民の民族解放い は、批判しこれに反対しな。 まれてしまっているのである。 の ケガラとしてある彼らの行く方

の対応は侵略などというもので 刺しされを緩介とする非和解的対・「、そこかに、日帝のアジアへ」、物質的諸関係についての自らました。 なってしゅかけいての自らました。 過程として展望 が閉されよ うと教底的に孤立を強いられ、直接の

の水準にすら到達することなく

われわれは、民族解放闘争、

通用しない。ところが後進国では地では通用するが、後進国では 以上引用同志) つまり、「民族自決」は植民

 であった。
 であった。

 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。

 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 であった。
 である。
 である。
 である。
 である。
 である。
 である。
 である。
 であるである。
 である。
 である。 スターリニストは民族主義的に のことの背後にはもはや日本プ である。しかし、こ

本プロレタリアート人民が排外主
み存在するのではなく、これに日 主義(権力)の抑圧体制としての このことは発揮液という点から

第一に、党の差末的資質として た親いの機関が不可父であ今とい。問題が現たしく例だわっているか、市られており回駆とすらしている。 であずまにまで行きわたる解説的「ゆく親後をうかえてるか、という」報せよという選挙する。後日に配するするだ。という「報せよという選挙する。後日に配するように、「おけった」という。 て大変な問題をなげかけてい

(これがアジア侵略・侵略体制の

、異衆はそれに動量されつつ の中に示されるように、いま、三、別的職動と抑圧は深々と疑問 ─ 七○年十・八や十・二一の綴い | フォロ県でしてつきづけられて|
| というように大性問題、いる日本部を願かが日本にたって、ないのである。
| マーカー | 日本部を開かが日本にたって、ないのである。
| マーカー | 日本部を開から日本にたって、マーカー | 日本部では、マーカー | 日本部では、マーカー | 日本部では、マーカー とアート

間分の根底的飛躍を果すべき推進

発

第4号入管体制 二百円価

■入管令は死刑への道 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45
 | 1.45

者」に対するスパイ・連報制度(防犯額がそれだ)「密出入国 排外主義的危機意識で組織し、 側因をはじめ市民を、報償金と 内容のものもある。沿岸の客組

密告者

て警察へ連絡した、と新聞配着て警察へ連絡した、と判断し、帰宅後家族と協議し

新してい た」ので あら、「密 機を購入するなどして「万全を

なかには、別掲の写真のような と山陰地方全域特に島根半島の 施戸線・駅・パス停・疾院など に、市内くまなく公衆電話の数 よのも多く林立じている。その なかには、別掲の写真のような

な (別様写真)ということが、 繁葵数 る。しかも、この通縁は「表徴数 る。しかも、この通縁は「表徴数 る。しかも、この通縁は「表徴数

この道程でした説師は、技具 第2年計をたているが、この 選で生計をたているが、この 選で生計をたているが、この 関係の がい の 危撃が行動の 織形と 編う の 町やみのなかで 繋がり の 野やみのなかで 野がりまき 動 行している 歯無人の 響内に入ってしている 歯無人の 響内に入っている 歯無人の 響内に入っている 歯無人の 響内に入っている 歯無人の 響内に入っている 歯無人の 響内に入っている 歯腫 大き

くりかえしているが、朝鮮から の「昭久国者」に対する部県 の「昭久国者」に対する部県 の「昭久国者」に対する部県 の「昭久国者」に対する部県 の「昭成」に対する部県 の「昭成」に横入て、英雄変無編 では、目じろから では、目じろから

第六學者芸 強制の 街上市返し 通報は補則の中

・密航はう助罪で不当にも逮捕 抵と機関資金部人国管理令選反

船をとらえ、境路に連行し、船 がいた。また、境郷上保安部はの老人達で含まれ、女性十三人

かステムの恐ろしさにがくぜん (なお、東シナ海で操業の日韓 の場が、漁網をめくって衝突を

サカ窓 航 // サカ窓 航 // サクランス // 大の子でタイン // 大の子でタイン // 大の子で // 大の子

のお扱つきで保証されている。

国民一人1人

特に山陰地方に顕著であるが、特に山陰地方に顕著であるが、

以下の記述は、増元の商業新聞入国者」を連携した事件である

5名通報 (公務員以外の一般 第六十二条第一項の規定に

にかきったものではない。

かぎったものではない。たとこれは、なにも島根半島だけ

は絶対的義務とされている。入にした通報が、公務員に対して

おり、様子が怪しいとき 怪しいとき

何人も、第 1四条(退去 整側の条項) 各号の一に該 当すると思料 当する外国人を

法制的諸問題

六ずの幼児から五十四才

ことができる。 金額を報償金として交付する 連報者に対し、五万円以下ので定めるところにより、その

この五万円という金額が、零

金かを考えるならば、この通報組な漁師にとっていかに賃重な

どが尋ねられ様子が怪しいと 停留所、旅館、土地の名前な、みかけない人から駅やパス

塊維市防犯協沿岸防犯部 裕 響 祭 署

することができる。 人物名では、 その旨を通数 こんなときは、すぐ養祭(一 出すな、入れるな スクラム組んで

密航者

一項は次のよう

(

管令第六二条であるが

その第

常養戒体制をとり、各道路にはだちに、島根県寮と松江署は非

日

本人全体をスパイ

厳重な検問がしかれた。また

付近の山を機動隊自五十人を動

***山狩 り* を 行なっ**

で定めるところにより、その時は、法務大臣は、法務大臣は、法務省令

た。この結果、上陸してから四

この通報制度の法的表現が入

、海梗半島に近

国に及んでおり、在日外国人は

今年六月八日午後九時ごろ、にあづいている。

合において、その通報に基い人の通報)をした者がある場

入管法再上程阻止•入管体制粉砕のために

人一人一人に監視されているの

本 幕根県大声経幹に住む鏡師の小本 幕根県大声経幹に住む鏡師の小

您知

<7>

に、財産的性を変化、実際が 変数達している。 さた、、協場がは効果があ とは、最初をにいる場所が認め、 がこの、目のランンが総の別がなる。 がこなっている。変質自康隆度 域のタント基準化、アウマン 域のアントをがし、アウン はのアントをがいます。 など、機能学療をなか1つの目 など、機能学療をなが1つの目

けすに魅力で「倒和」してきた。 島 朝鮮人十人を、タタシー運転手 到 東京でも在日朝鮮人居住地の飼 選 辺に防犯連絡所が集中している 宝 フに防犯連絡所が集中している こ ことが判断した。

報

金摩生の労働者は特別国民保険

務員には を義務 化 迪

らも 在日外国人と 接すること が多い。たとえば、自治労の労 勝者は、区所所や市前村役所の 数口で、外国人登録や国籍書き かえ、「水准権申詞」などの画

型 地方自治体と労働者の関係を、 の つくりかえていく攻撃がかけら ・

積極的担いチョッ役人。

この最後の義務は、

積極的に協力した漁業協同組合

警長円署は、釜山から漁船のい えば、十一月二十五日、山口県

管令第六二条第二項は次心よう

体制粉砕検問を実力で突破 侵略体制に屈服する大学との対決

l u

マルクス主義学生同盟中核派・法大支部

ンの棚全持った機動隊が不法な機一学もろともに権力へ売り渡し。優く、仮田橋の何訳ではジュラルミ | 結集する。「検問を実砕せより大」のしい戒敵状態におかれた。市ケ | い。集会が始ま今と学友は続々と た。しかし長期ロックアウトによ一げに動き回っているのだ。を「解除」し投業再開に踏み切っ一には、日共教技が胸拿をつ は二ヵ月にもおよぶロックアウト 十一月二十四日、法政大学当局 ヘル先頭に闘う ト た。その権力に置められた経 関手の権によって固められた経 変所に援動隊が配備され、正 ぐらぬけ、授業開始時九时、突如 大全共闘は巧妙に権力の検問をくげに動き回っているのだ。だが法 金共闘部隊は登校時の学生によ として正内的にヘルメット等で登 日共教授が胸傘をつけ忙し

とするロックアウト体制 り いっせいに検問所へ殺到し、検問 いな学女は怒り、権力の選をついて は しかし、この奨挙を見た圧倒的 た 翻的デモと一千名にも及ぶ大集会 を粉砕し、学内へ需励れ込み、戦 る。権力の全共闘予防拘束はあた 開連立の攻撃そのものである事を 一の攻撃が、それに全面的に無限し

和な全日本民衆の闘いを、いまやれつつある侵略政策と対決する広 な位置をしめる革命的共産主 たな大学闘争へ 反革命粉砕し新 日帝は、戦闘的学生運動が重要

上裁選

・根絶する事にやっきになっている いとして永純的な闘いとして展開 大学闘争をロックアウト体制の具したがって、われわれは今日の 日帝のアジア侵略の危機を認識して行かねばならないのだ。 今日の日帝のアジア侵略と侵略収休的請攻撃を打ち破る願いの中で

日大城争を災被口と

いるのだ。まさに。侵略の響へ な「左翼」的な言辞を弄して学生 わが単マル派は、東大、

ウト体制として 開花して いるの ア侵略の現実を否定すること ハジキ州はされ、その上、戦闘が彼ら率マル派は法大全共闘か 学生大衆を反動的

次全国大学概争で生み出されたま

そのための重要な一環と の大学副争を闘い抜くことは抉し「根底的に対決する「破壊の思想」し得ない日共・華マル派が、今日「れになる城闘精神と、帝国主義と

脚はいよいよ戦闘態勢を固めたの れていた白へル部隊が合流し金共 れていた白へル部隊が合流し金共

草マル派はこの全共闘の断固た

質の権威ある協力岩とした事を知 を民衆の侵略似争への積極的な動 へ向う過程で、日帝が様々な教授 今日この様な野望を持った日常

集団軍マル派を粉砕し囲いぬくで

第二次全国大学闘争は、バリケー いない。帝国主義は決して学友の

ち広範な闘う学生大衆の中に眠うとは、反動荒れ狂う今日にあってとは、反動荒れ狂う今日にあって

して、新たな大学属争を断回とし

無縁である。日共・草マルを粉砕・主義的排外主義者集団草マル派は

の旗をなびかせ先頭で闘う。

ったことを認めたのだ。この司法

実刑判状に全く起することなく

民族たる自己であって日帝のアシ 間う緩いを遂行すること、 "抑圧

的再編を推し進めんとしているの

て願いぬかなければならない。侵し、新たな大学闘争を追求しつつ

われわれは、日帝のアシア侵略 だからこそ、日南は大学の根底

Wいには、日共はもとより、帝国へ 特せんとする大学騒争として、わな 得せんとする大学闘争と

○」と願い母く込大共興の強烈な 翌た」と、私服養信の出勤を行な (人)と願い母く込大共興の強烈な 翌た」と、私服養信の出勤を行な (人)と願い母く込大共興の強烈な 型だして、政制用養傷員と念く回り (人)と願い母く込大共興の強烈な 型だし こ 深橋 (人)と願い母く込大共興の強烈な 型だし こ 不満 (人)と願い母く込大共興の強烈な できたい こ では、 (人)と解い母となった。

いた。 いたのうとした高級の文字を徴託的 いたのうとした高級の文字を徴託的 に異繁弾動した。

この日の倒いは、私服の動員を控訴等明日に指定して閉廷した。

正記化をは かろうとし

要請で迷ていることも確認され、答えたのである。高蔵長官からの たところ丸の内管祭署員であると

おことわり 連載「苦臓せ

生命をかけて対決するのか。とその物質的根拠を断つ関い

は、 大民を裏切り続けるのか。それと アジア侵略に総対決しうるのか。 ・ 大民・毎日アジア に 大民・在日アジア

芸師の聞いによって粉砕され、 この様にして、機間、正常化はノコンと帰らざるを得なかった。

ソコソと正門前に登場したのであ 派百名が、全員竹ザオで武装しコた様に全部からかり集めた革マル

が反革命的に質徴されよい 治安立法体制=ロックアウト ○急騰開を示す日前の侵略収争体

この体制こそアジア侵略へ

の様に。しかも全共闘が弾圧され かも平マル派の登場を準備したか

ならない。

の 説はこのような反単の持外主義者 ア 不可能なのだ。 法大会共闘と中核 大衆を獲得することも、そもそも ・ 不可能なのだ。 法大会共闘と中核 ・ は大会共闘と中核

りぬき東

根弁派人は岡坦裁判長の逸脱職人の気制であるれた。とく

2 (五めん 入管闘争にかか

んから

っ

状況に追いやっている。

人民な日常的に極度に困難な

か 選ぎで和圧を容易し、これに加担 ア するものを容赦しえないし、容赦 はしてはならないのである」 この願いをもって自本階級関争

この恥ずべき状態の克服の

な は、これまでの全くあいまいな階 級的性格を突破して、被抑圧人民

群訟指揮を具体的に縁誘し、整備 料理をあびせる彼台、弁護団、物

こにあるか。その階級的内容はど

先頭に立つ党)が何を国おうか全 えば、アジア人民

ます、

入管問題は

日本プロレタ それでは人質服争にいかにかか

認めざるをえないのである。われとは、深刻にも当然であることを

東大控訴審 田 三組

異常警備を追及

高裁長官が私服を要請

し、十七旦は近二グループの含り の公判において発言を禁止された の公判において発言を禁止された の公判において発言を禁止された 日、被告、弁護団は高載をめぐる。 短欠席判決の一周年にあたるこの けをなした昨年十一月二十八日岡 弾劾、法廷は終始紛糾した。前回 異常な婚備体制を徹底的に追及、

提 展 観的な予断 個見による飛飯山蟹 ともって反論し、いかに江南の主をもって反論し、いかに江南の主をもって反論し、いかに江南の主 備が不当であるかを明らかにした

と れは受け止めるだけでは全く不光 しかし一般的なそれとしてわれわ た 民地問題を感味するものであるが れ しかし一般的なそれとしてわれわ あ

民の アジア人以に対する 百年に日常およびそのもとでの日本人

本プロレタリアート人民は、その 聞いる徹底的に推進することをれば遊な見塩から言えば、日 われわれは次の諸点にかか

の革命的攻撃性を

顕争において結実せしめるもの
上

3、日本階級闘争

け 奇に対する本物の 所級 的対決を

に対する双綱的対決の隊形を形成って、日本階級闘争のアジア侵略

6 第三に、入資酬学を日本人民の がだけでゆかねばなら ぬ ことであ あげてゆかねばなら ぬ ことであ

してゆかなければならない。

例一に、 日帝のアジア侵略の大

80c。 抑圧以来としての日本人まるだし ので、 抑圧以来としての日本人まるだし ので、 抑圧以来としての日本人まるだし ので、 抑圧以来としての日本人まるだし ので、 抑圧以来としての日本人まるだし

分なのである。

かれは、いわゆる「皿の債務」の で選及出きなくてはならない。

くりだしうるのである。 アジア侵略の攻撃の前に、かっち

ペ ゆくことが次海にてきじゆくよう
と になるのである。さらに、こうし
た たりまである。さらに、こうし
た たりまである。さらに、こうし
た たりまである。さらに、こうし
た たりまである。さらに、こうし
と にこうい きなく日本等が入っての
で は への行久の等の外を自本の等及

き排外主戦の場としてあらわれる

シーパーをもった私展、高載、地一まで体延した。再開された法庭でのシャッターをしめきり、トラン一十分合議に入り、十一附五十五分 まず消野者が、高裁四号法廷前 ろもどろになった江崎は十一时四 この間の執拗な追及によりしど

もし当該外 機のパイロットにも船長と同じ 機のパイロットにも船長と同じ スコミも

間じせに手配 (この事件につい さに衝努だく)をしたそうであ つしらみつぶしに聞き込み(ま

と近月ごろから調べていた。 を

その罪悪を無物限に償なわねばな に 部一今日回資質を自己批判的に解 12 匠の矢具となってきた自己の歴史 興され、アジア人民の殺りく、抑 れむにあたって、日帝に組織=動

樹 被和圧人民の命をかけた告募こ のはに明らかにしてゆくことである。 ではいることについて、徹底的 でいることについて、徹底的

司張

日アジア人民の厳しい願いとそのその点をさらに探化すれば、在 級性の核心をつかみとらなければ

ゆえに最も鋭くアジア侵略の深化 死の苦しみと危機を駆じているが

は断じてゆるす わけに ばいかな る恥ずべき現実の拡大をわれわれ

コミか民族排外主義を結狂的に 商業新聞をはじめとするマス 通報の尖兵 鮮が目帝の韓民地だった時代の興班学院卒・『東班日報』(引 リスト初川三郎なる男は、 のせているスクープ・ジャーナ

配の。无となって働いていた人間である。 中支派道策報道近過という経歴 朝鮮総督府の御用新聞)記者・ このように、マスコミ

銀行部門支店の副長管道正男が 既によれば、この事件は、富士 版円不正概質事件。である。新 関係は、日帝のアシア侵略特派員と日本大使館との密

れによって種々の物的かつ意識的あるのだということである。【そ

われは彼らに明らかにする義務が一緒問題の一つ一つにおいて、

ねれ

マ かいましていています。 4、全学連二十九 の (公議者) インス (公議者者) インス (公議者) (公議者) インス (公議者) インス (公議者) (公議者) (公議者) インス (公議者) (公議

諸関係によって緊落させられ

のものの腐敗を思想的、組織的に しには、本当に日帝のアシア

人民と真底から連帯しつる主体へ

この大々印、組織的遂行な

3いはそれを当然に思って無自覚 というものの恥ずべき全体像を

からし

と縁対決する道は切りひらかれな

き、それまでの指導部たる社共のがアジア侵略の総攻撃にあったと

前期限切れとして急進展する日帝 現を望みえぬ解いる、にもかかわ 大変革してゆくという われはこの成立を断じて許しては

らず入賞法再上程、

がするスパイ・システムの一つ 対するスパイ・システムの一つ 内における警察とマスコミのゆ もにまずまず強化され、

に、かかる自己の歴史と現実を

であるが、しかし、そうであるが

とその腐敗、解体を示して

実にかちとってゆかねばならない が非でも粉砕するという緊急の脚の現実の攻撃と対決し、それを最

企国の学友諸君ノ 入管法等

いと並行して、その闘いの中で着

権力者への憎悪に満ちた非姿盛的 と、

四い

全権

し

近め

なければ

なら

われわれは、アシア侵略に本当にしよせてきている中で、徹底的に 姆に日本階級闘争の全問題性がお わらなければ ならぬ われわれ自

。参奖

-処分粉砕闘争の指針と武器--

る (人間的批判等がまえないプロ 命的祖国敗北主義は、オシ での鮮明化をかちとりうるのであ自己の階級性の現実的諸関係の中

日本人民のなかに百 粉 反 創 刊 믉

> の た め

に

■資料 三菱電機/三菱広島 ・ 東地本新小岩文部 ・ 東地本新小岩文部 会議事録/刑事事件休職

魔実践的法律豆知職 クピキリと仮処分裁判に 芸値 に関する戦略規則抜挙ノ

神奈川県横浜市中区山下町二四四神奈川教授センター気付

在を許し、法務者、法務大臣、入せを制の存というギリギリのところで闘って 処分粉砕京浜労働者共闘会議

3

「在日朝鮮人の法的地位」)

本国家権力と体をはって対決する

公務員には義務づけ していくものなのだ。 していくものなのだ。

通報者に報償金五万円

和丸船長・船員、裕栄丸船長・

氏に対してはもち

入信令も改悪人管法も、「船舶を示している。たとえば、現行を示している。たとえば、現行国」に神経をとからせているか 酸しい義務づけが、船長などにかかる公務員に対する以上の 各種の義務 通過だけに止まらない 日本政府がいかに「選入

その義務

うに述べられている。 パリ特級員石級使二品が、

選果本部大会での国籍書きかえ 実務研修会粉砕闘争、自治労三 ・実務研修会粉砕闘争、自治労三

年にわたって根強くつちかわれて

新聞等報告 日本別信京浜型 介護士 川島仟太郎

れた。このジュネーブ特級員は・ホテル』で有馬社長は逮捕さ んでから、 ホテルには いっ 関係方面に 手配するよう 類 これから順込む」と予告し、いる場所がわかった。ほくは こうして、パリの「マイアミ

要求文持が決議、大阪市場青年 要求文持が決議、大阪市場市 などが開始されている。またま で被力なこれらの臨いを、さら に催力なこれらの臨いを、さら った権力なこれらの闘いを、 公務員入意園結成へむけた。 まなどが開始されている。ま

> は果しえないのである。 水しないならば、断じてその義務 ジア人長の闘いとの連帯の道を追 闘い、その闘いを通じて真剣にア

製作所ノ昌運製作所ノ金製作所ノ金

電温脈沢分会/動力車千

国籍語さかえ問題や知さんの間

ス国」し、羽田空龍で機動隊員 実に二千軒もある別荘を一れた。このジュネーブ特派 題して、独自の一章を設けてい

い この場合 船長 が「景人園 型」を同じて知らなかた。 り、何かはたし」との場合。 の「際人にしいなっ」との場合。 の「際人にしいなっ」との場合。 は、いっての場合」といっての場合。 は、いっての場合」といっての場合。 は、たっての場合」といっての場合。 は、たっての場合。 は、たったのの場合。 は、たっての場合。 は、たっている。 は、たってい。 は、たっている。 は、たっている。 は、たっている。 は、たっている。 は、たってい。 は、たっている。 は、たっ

1人一人会スパイにしておくこ
 1人一人会スパイにしておくこ
 1人一人会スパイにしておくこ
 1人とは、大智は脚の温炎生条件を
 1人とは、大智は脚の温炎生条件を
 1人とは、大智は脚の温炎生条件を
 1人と、大智は脚の温炎生条件を
 1人と、大智な生命を
 1人と、

■ ている。現在公務員は約二百万を 報じなければならない」となっ○ をおりなければならない」となっ ・一般人。に対しては「通報・一般人。に対しては「通報・ 国又は地方公共団体の順員国又は地方公共団体の場合といって前頭の外国人を知ったとって前頭の外国人を知ったとって前頭の外国人を知ったといった。 当 (これについては別の機会に無 にする)を増して、全労働の労働 に対象安定所ならを辿して 発 在日射鮮人・中国人の生徒と接 を仕目外解人・中国人の生徒と接 の住所移動や家族・友人関係な

国家権力が、

などの攻撃をかけてくる可能性 動当に、懲戒免職・停職・減給

国権書きか点問題・追及された 発達しばかの を対しては、 を対しては、 を対しては、 を発している。 を表しては、 を表しては、 を表しては、 を表しては、 を表しては、 を表している。 をましている。 を表している。 を表している。 を表している。 を表している。 を表している。 を表している。 を表している。 を表している。 をましている。 をもな、 をもな。 をもな 上に動かそうとしているのだ。た をその忠実な完先として、今以 発するために、船長や運送業者 例として、現在強制送過の攻撃 と属っている、丁城相氏の場合 次に、この条項の具体的運用の

一大は肥年八日、韓国船谷宗 をして、神戸種において行 た。そして、神戸種において行 が、中戸種において行

公務員である以上、惠 号にかくれ

の。ここで重要なのは、有局社は金東書)に対し、無担保で十 彼の逮捕に解外特派闘法で助員 の会社)の有馬哲社長(韓国名 挺が朝鮮人であるということに たとえば、十月十八日

柄話しが堂々と掲載され 『サンデー毎日』には、その手 のだ。この「鉄壁を誇る」

テムが入資体制の強力な武器で 不完分」として、この通報シス 成するためには響緊力だけでは

大、腱い、中型医技術や兵庫県三田近 重要である。すでに、塊継での近 重要である。すでに、塊継での とする公討員の握いは決定的に いっぱい かんずく 目治体労働者をはじめ ムに対して聞うことは われわれが、この通報が

としての偽善を一片も完版すると の的祖国敗北主義は、オシャベリ た自己の人適解放への闘いや、革 れわれが、入管闘争に全力をもっ 換言するならば、日本人とはありえないのである】 早人た

> 砕 戦 パ